

始メテ其趣味ノ高尚ニシテ、技藝ノ發達セルニ驚キ、頻リニ之ニ模倣セントノ希望ヲ起セリ。之ヲ羅馬文學ノ起源ト爲ス

第一ノ戯曲

而シテ羅馬文學ハ、戯曲ノ形ニ由リテ始メテ社會ニ現ハレタリ。今ソノ次第ヲ述ヘンニ、羅馬建國以後殆ント四百年、即チ紀元前三百六十三年、同地ニ惡疫流行シ共和政府ハ百方防禦ノ手段ヲ運ラシタルモ、到底効驗ヲ見ザリシカバ、鬼神ノ怒ヲ解カントテ、ニトルリアヨリ俳優ヲ招キ、戯ヲ演セシメタリ。蓋シ共和政府ノ眞意ハ、果シテ前記ノ如ク神慮ヲ慰ムルニ在リシカ、將々此面白キ新工夫ヲ用ヰテ、不平ナル人民ヲ慰ムルノ頓智ニ出テシカハ、得テ知ルベカラズト雖モ、兎ニ角俳優ガ羅馬ニ招カレシコトハ疑モナキ事實トス。只其演スル所ハ、拙劣ナル舞踏ト身振トヨリ成リ、笛ヲ以テ之ニ伴フ所ノ貌戲(ダンマリ狂言)ニ過ギズシテ、更ニ歌又ハ臺詞(セリフ)等ヲ交ユルコトナカリキ。是レヨリ數十年ノ後、紀元前二百四十年ニ、マグナ、グレシアノ人リヴヰアス、アンドロニコカスニ至リテ、眞正ノ戯曲羅馬ニ現ハル。ソハ次章ニ詳叙スベケレバ、茲ニ之ヲ畧ス。又前記ノ貌戲ガ羅馬ニ演セラレタルト殆ント同時ニ、彼ノエトルリアニ於テ収穫ノ時ニ歌

ヒシフエスセンヨン歌モ、亦羅馬ニ於テ結婚ノ儀式若クハ公衆ノ宴會ニ、又ハ凱旋ノ際ニ又ハ陣營ノ内ニ之ヲ歌フコトニ定マリ、爾來漸ク發達シテ歌曲ト爲レリ。此歌曲ハ英雄ノ功績若クハ軍士ガ危險ニ遭遇スル狀(サマ)ナドヲ叙セルモノナリ。左レド其數ノ多カリシニモ拘ハラズ、希臘文學渡來ノ後ハ悉ク失ハレテ復タ存セザルナリ。

第二章 戯曲

戯曲ノ濫觴——リヴヰアス、アンドロニコカス 羅馬ニ於テ眞正ノ戯曲ノ現ハレ

戯曲ノ濫觴
リヴヰアス、
アンドロニコカス

タルハ、紀元前二百四十年リヴヰアス、アンドロニコカスヨリスルコトハ前既ニ之ヲ述ヘリ。今コノリヴヰアス、アンドロニコカスノ傳記ヲ尋ヌルニ、氏ハマグナ、グレシアノ人ニシテ
マケナ、クレシアナナ没落
タルンタム
ルカラアリアノ都府
没落
タルンタム
ハ紀元前二百八十一年ニ在リ
ノ際ニ羅馬人ノ爲メニ敗トセラ
レテ、リヴヰアス、サリチーターノ奴隸ト爲リ、後自由ノ民ト爲ル。氏ガリヴヰア
ス、アンドロニコカスト稱シタルモ、當時ノ慣例ニ從ヒ、主人ノ名ヲ貰ヒ受ケシニ由リテナ
リ。諸氏ハ羅句語ヲ學ヒテ、充分ニ之ニ熟達シ、羅句語モテ悲哀戯曲、若クハ滑稽戯曲ヲ

作レリ。但シ皆其精神ヲ希臘ノ戯曲ヨリ借り來レルモノカ、否ラザレバ、希臘ノ戯曲ヲ翻譯セルモノ、ミナリ。又オヂセーホーマーノ作ナリ希臘文學史ノ部ニ詳ナリ及ヒ其他ノ諸歌ヲサターニアソフン節ニ翻譯シタリ。是レ等ノ諸戲ヲ舞臺ノ上ニ演スルニ當リテ、氏ハ俳優中ノ一人ニ加ハレリ。氏ハ實ニ羅馬詩ノ鼻祖ト稱スベシ。而シテソノ著作ハホレーヌ後ニ在リノ頃、學校教科書ノ一トシテ用非ラレタリ。左レド其後滅ヒテ傳ハラズ。今存ズルハ、僅ニ「コーパス、ポエタラム」羅句詩中ニ載スルモノ、ミ。

第二ノ詩人

第二ノ詩人子ヴ井アス カムベニア今伊太利ノノ人ナリ。身ヲ軍籍ニ投ジ、第一ビエニツク戰 紀元前二百六十四年羅馬トニ從ヘリ。後文學社會ニ轉シ、リヴ井アスト同シク、希臘戯曲ニ模擬シテ數多ノ滑稽戯曲ヲ作り、又我カ目撃シタル所ニ依リテ、第一ビエニツク戰ノ顛末ヲ戯曲ニ作ル。而シテ氏ノ戯曲ヲ始メテ舞臺ノ上ニ演シタルハ紀元前二百三十五年トス。氏ハ平民黨ノ一人ナリシカバ、劇場ヲ以テ貴族黨攻撃ノ機關ニ供シタリシニ、偶々執政官メテラスヲ侮辱シタリトノ廉ニ由リテ、法律ノ問フ所ト爲リ、獄裏ニ呻吟スルヲ數月。後保民官ツッピエンノ許ス所ト爲リタルモ、更ニ復タ退去ノ命ヲ蒙リ、ユーチカ阿非利加有名ノ府ニ在リニ於テ餘生ヲ送レリ。紀元前二百三年ノ頃死ス。其著作ノ或ル碎片ハ今猶現存セリ。又前記ノ第一ビエニツク戰ノ詩ノ如キハ、羅馬建國ノ事ヲ附記セル名作ニシテ、エンニアス次ヲ及ヒゾアール後ニ愛讀スル所アリシト云フ。

羅馬文學眞正ノ鼻祖

羅馬文學眞正ノ鼻祖エンニアス 紀元前二百三十九年生レ、同百六十九年死ス。カラプリア前ニ在リナルルルーヂノ人ナリ。同二百四年撒丁ニ於テ、不圖ケト長ケトナリニ邂逅後ニ詳ナリシタリシカバ、ケトハ伴フテ羅馬ニ歸レリ。氏ノ羅馬ニ在ルヤ、其才學ノ俊秀ナルニ由リテ、府民シキズノ名義ト特權トヲ得タリシカド、卑シキ家屋ニ住シ、貴族ノ子弟ヲ教導スルヲ以テ足レリトセリ。親友頗ル多シ。最モ親シキヲ長シヒオ、アフ리카ナス紀元前二百三十五年(?)生レ同百八十四年(?)死ス羅馬有名ノ將軍ニシテカーセーシノハンニバルニ勝テリ。死スル時年七十。

著ハス所ノ尤ナルハ羅馬紀年(アンナルス、オフ、ローム)ト題スル史詩ナルベシ。此詩ハ十八卷ヨリ成リ、往古マース及ヒレアノ愛戀マースハ軍神ナリ美麗ナル女神ヰ非ナスト私ニ情ヲ通セシテアリレアハ女神ニシテサターンノ妻ナリ夫サターン我カ子ヲ食リ食フノ辭アリ故ニレアハ之ヲ愛憐シ我カ子ヰユヒヨリ始メテ、著者ノ時代ニ終ル。全体六脚韻ヲ以テ綴レルモノナリ。其他又無數ノ悲哀戯曲、少許ノ滑稽戯曲、及ヒ數多ノ

詩歌ヲ著ハセリ。氏ノ文體ハ稍々欠點ナキニアラザレド、ソノ欠点タルヤ、多クハ之ヲ同時代ノ通弊ニ歸スベクシテ、氏一人ノ特質トハナスベカラズ。左レバ、クヰンチリアン後ニ在リ ヲアール後ニ在リノ如キ大家ハ頗ル氏ノ著作ヲ愛玩シタルノミニ止マラズ、ソノ著作ノ幾分ハ今猶現存セルナリ。

滑稽戯曲ノ鼻祖プロト

プロトダス 名ハエム、アクシアス。羅馬滑稽戯曲ノ大家ニシテ、ソノ鼻祖ト稱セラレ。紀元前二百五十四年ノ頃生レ、同百八十四年死ス。アムブリア今ハ大利ノ一州ノ一小村サーシホノ人ナリ。夙ニ少年ノ時ニ羅馬ニ出テ、俳優ト爲リ、少許ノ金錢ヲ貯ヘ得タルヲ以テ、羅馬ヲ去リテ商業ニ從事シタリシガ、不幸ニシテ失敗ヲ取リ、貧困ノ淵ニ沈ミス。世ニ傳フ、當時氏ハ暫ク糊口ノ爲メニ麵包師ノ下僕ニ傭ハレテ其家ニ住ミ込ミ、小麥ヲ粉ニスルノ傍ニ、三種ノ戯曲ヲ作り、之ヲ劇場ノ座主ニ賣リテ始メテ此賤業ヲ止メ、再ヒ文筆ニ從事スルヲ得タリト。左レド又一説ニハ、氏ハ決シテ斯ル賤業ニ關係センコトナシト云フ。ソハ兎モ角モ、此三戯曲ノ世ニ出テシハ氏ガ三十歳ノ頃ニシテ、爾來四十年間常ニ著作ニ從事シ、著ス所ノ滑稽戯曲合シテ二十五種ノ多ニ及ヘリ。今存スルモノ廿種アリ。

氏ノ戯曲ハ其模範ヲ希臘ニ執ルモ、其人物ノ性質、言語、動作ヨリ諧謔等ニ至ル迄、悉ク之ヲ羅馬風ニ改作シ、何レノ點ヨリ觀察チ下スモ、純平タル羅馬ノ社會、羅馬ノ人物ヲ羅馬ノ戯曲ニ描寫シタルモノト云フベシ。故ニ頗ル羅馬人ノ嗜好ニ適セシノミガ、當初ハ純潔高尚優美ニシテ活氣ニ富メリトテ、學識アル人モ亦之ヲ頌讚シ、之ニ模倣シタリ。ゾア紀元前百十六年生レ同二十八死ス羅馬ノ學者ニシテ著述家ナリハ氏ノ戯曲ヲ評シテ曰ク。「ミューセス詩ノ女神ナリ前ニ詳ナリ若シ羅句語モテ談話ヲナサントナラバ、必ラスプロトダスノ言法ヲ以テスルナラン」ト。又シセロ後ニ在リハ氏ノ滑稽戯曲ヲ以テ希臘ノ滑稽戯曲ト對等ノ地位ニ置キ。又後年プレーグノシエロ一千三百七十八年(？)生レ一千四百一十六年死スホヘミアノ改宗家ナリハ既往ノ過失ヲ悔ヒテ、連夜涙ニ咽ビタルノ未、プロトダスノ戯曲ヲ讀ミテ齷ヲ散シタリト云フ。

帝政時代ニ至リ、羅句語漸ク改良チ加ヘ、漸ク純潔ヲ増スニ及ヒテ、氏ノ滑稽戯曲中ノ疵瑕ハ漸ク世人ノ悟ル所ト爲リ、之ヲテレンス次チ見ヨノ高尚ナルニ比スレバ、一步ヲ讓ルベキモノトセラレタリ。左レド猶劇場ニ於テハ依然トシテ獨參湯トモ稱スベキモノ、一二位シマイオクシアン帝紀元後二百四十五年生レ三百十三年死ス羅馬帝ナリノ時ニ至ル迄、常ニ舞臺ノ上ニ演セラレタリ。

タス」頭學ノ渾名ヲ受ケリ。氏ノ悲哀戯曲ハ多ク其撰範ヲ希臘ニ取ルト雖モ、中ニハ其趣旨ヲ羅馬ノ古話ヨリ取ル所ノ「プレテキステート」種ニ屬スルモノナキニアラズ。而シテ其一ナル「ホーラス」ト題スル戯曲ハマセドニア王エミリアス、ホーラスヲ主人公ト爲シ、ヘルアス征服ノ顛末ヲ叙述シタルモノナリ。

アグシアス、紀元前百七十年生レ、長壽ヲ保テリ。前者ト時ヲ同フシ、稍々少カシ。シセロ少時屢々氏ト往復シ、親密ナル交際ヲ爲セリ。著ハス所ノ悲哀戯曲亦多ク撰範ヲ希臘ニ取ル。中ニ就テソフナクリス希臘文學史ノ部ニ在リノ悲哀戯曲ヲ編譯セルモノ過半ヲ占ム。然レトモ亦羅馬ノ古話ヨリ取レルモノモ少ナカラズ。其中「アルタス」ト題スルモノ最モ名アリ。氏ノ戯曲ハ今傳ハラズ。獨リシセロノ著書中ニ挿入セルモノトミ存セリ。

前既ニ述ヘシ如ク、羅馬戯曲中ノ眞ニ戯曲ノ名ヲ下スベキモノハ、希臘傳來ニ相違ナシト雖モ、其他ニ又一種ノ戯曲ニシテ自國創製ノモノナキニアラズ。今之ヲ左ニ列舉セン。

アテラ戯曲

(一)アテラ戯曲 カムベニア今ノ伊太利ノ地ノ府アテラヨリ起リシニ由リテ此名アリ。オスカ語ヲ以テ綴レリ。當初ハ粗末ナル俄狂言様ノモノナリシガ、其後漸ク發達シテ本在言ト均シク數段數幕ニ分レリ。今世伊太利ノ戯曲ボリシチロハ是レヨリ起リタルモノナラント云フ。

マイム

(二)マイムマイムハ道化狂言ノ義ナリ 前者ノ外、又他ノ滑稽戯曲ナリ。マイムノ名ハ希臘ヨリ來レリト雖モ、其實ハ彼レヨリ借レルモノニアラズ。此戯ハ下等ノモノニシテ、物真似ト身振トヲ

專一ト爲シ、文句ハ之ニ從ヘリ。

羅馬ノ總裁シラ紀元前百三十八年生 同七十八年死スハ頗ル是レ等ノ戯曲ヲ好ミ、屢々之ヲ演セシメシカバ、上ノ好ム所、下之ヨリ甚シキモノアルノ比喻ニ違ハズ、此種ノ戯作者續々輩出セリ。而シテマイム作者中ノ最モ擢ンデタル者二人アリ。一チデシマス、ラベリアスト云ヒ、一チパブリアス、サイラスト云フ。

デシマス、ラベリアスハ紀元前百五年ノ頃生ル。羅馬ノ勳爵士ナリ。又パブリアス、サイラストハ元來シーリアノ奴隸ニシテ、後自由ノ身ト爲ル。二人共ニシーザル後ニト時ヲ同フス。紀元前四十四年シーザルノ埃及ヨリ凱旋スルヤ、亦後ニ詳ナリ市民先ヲ争フテ之ヲ祝ス。サイラストハ我カ同業ヲ悉ク集メテ俄狂言ヲ演シ。相互ニ頓智ヲ競ハシメントス。皆其招ニ應ス。獨リラベリアスノミ應セズ。シーザル依テ五十万セスターセス我カ二万圓ノ許ニ當ル報酬ヲ出シテ之ヲ招ク。時ニラベリアス年既ニ六十。マイムヲ演スルヲ以テ頗ル我カ面目ヲ汚スモノト爲シ、招ニ應スルヲ屑トセズ。然レトモ總裁ノ希望ハ命令ニ均シキヲ以テ之ニ背クヲ能ハズ。止ヲ得ズシテ之ニ從ヒシカド、何事ニ於テカソノ不平ヲ漏ラサン

ト欲シ、狂言ニ託シテシ、ザルノ專横ヲ咎メシカバ、一座皆手ニ汗ヲ握リテ眼ヲシーサルニ注ケリ。左レドシーザルハ別ニ憤レル色ヲモ顯ハサズ。只サイラスニ恩賞ヲ與ヘテ以テ僅ニ復讐ノ意ヲ示セシト云フ。ラベリアスハ、シーザルノ暗殺後十ヶ月ニ死ス。ソノ著作中今僅ニ碎片ヲ存スルノミ。

(三)フエスセンニン 前章既ニ述ヘタレハ茲ニ之ヲ贅セズ。

第三章 詩歌

羅馬詩

羅馬ノ詩ハ自國ノ創製物ニアラズシテ、希臘ノ輸入品ナリ。而シテ詩人ノ最モ舊ク、且ツ勝レタルヲラクリシアスト爲ス。

ラクリシアス

姓名ハタイタス、ラクリシアス、カラヌ。紀元前九十五年生レ、同五十年ノ頃死ス。羅馬有名ナル詩人、哲學者ナリ。少將雅典ニ遊ヒテ、ゼノノ希臘文學史エドラスソクヲテスノ門人ニ教ヲ受ケ、當時同地ニ流行スルエピキユラス希臘文學史ニアラズシテ長圓体ニ人ハ地水相混合シ日光ニ

熱セラレタルヨリ生スルモノナリ紀元前四百七十年(?)生レ同三百六十一年(?)百九歳ニ無窮説、デモクリタス紀元前四百七十年(?)生レ同三百六十一年(?)百九歳ニテ死ス希臘ノ哲學者ナリ世人氏ヲ試驗哲學ノ鼻祖ト稱ス

ノ分子説ヲ混合シテ「物性」(デ、リラム、子チユア即チオン、ゼ、子チユア、オフ、シングス)ト題スル六韻脚ノ哲學詩ヲ著ス。同詩ハ六卷ニ分レ、氏ノ名ヲ不朽ニ傳ヘシモノナリ。氏ハ同詩ニ於テ、世ニ鬼神ナルモノナキヲ述ヘリ。後發狂シテ自殺シタリト云フ。

カタラス

カタラス 名ハカイアス、ヴァレリアス。紀元前八十七年ウエロナニ生レ、同四十七年ノ頃死ス。父ハシーザル後ニ在リノ友ニシテ富豪ヲ以テ名アリ。カタラス之ヲ繼キ、奢侈ノ爲メニ其大半ヲ消費セリ。故チ以テ損失ヲ恢復セント欲シ、太守メムミアスノ一行ニ隨テピスニアニ赴ケリ。左レド充分ニ希望ヲ達スルコト能ハズシテ歸ル。

著ハス所、樂詩アリ、悲歌アリ、短詩アリ、英雄ヲ詠スルノ詩アリ。其「アナス」氏ノ詩ノ名

氏ハ羅甸詩人中ノ最大家ニシテ、ヴァーシユル後ニ在リホレーヌ後ニ在リヲ除クノ外、ソノ右ニ出ル者ナシ。然レトモ幾分カ當時ノ弊風ニ感染セザルニアラズ。是レ時世ノ罪ナリト云フト雖モ、

氏モ亦ソノ責ヲ分擔セザルヲ得サルナリ。

第四章 散文

編年史

羅馬散文ノ最モ舊キモノヲ編年史類ト爲ス。即チ年代ヲ追フテ羅馬史中ノ大事件ノミヲ略載シタルモノナリ。而シテ此編年史家ノ最モ舊キモノハ誰ナリヤト言フニ、フアビアス、ピクター及ヒシンシアス、アリメンタスノ二氏ヨソ最モ舊キモノナルベシ。

フアビアス、
ピクター

フアビアス、ピクター 氏ハ紀元前二百二十五年前後ノ人ナリ。始メテ羅馬編年史ヲ著シ、ロマラス建國ノ初ヨリ紀元前五百三十六年ニ至ル。其書今現存ス。

シンシアス、
アリメンタス

シンシアス、アリメンタス 第二ビユニツク戰紀元前二百十八年ニ始マリ十七年間ニ渉レリノ頃、西々太守ナリ。編年史ヲ著ハシ、ハンニバルカールセーシ國有ノ事蹟ヲ綴レリ名ナル英雄ナリノ事蹟ヲ綴レリ。

以上二氏及ヒ其他同時代ノ人々ガ著ハセル編年史ハ皆希臘語モテ叙述セルモノニシテ、羅句語ニアラズ。羅句語ノ散文ヲ綴レルハ有名ナル風俗視察官ケトローチ以テ嚆矢ト爲ス。

長ケトロー

ケトロー 名ハマーカス、ポルシアス。長ケトロート稱ス。紀元前二百三十五年生レ、同百

四十九年死ス。著ス所多シ。其一ヲ百事起源ト云フ。分チテ七卷ト爲ス。第一卷ニハ羅馬

馬歷代諸王ノ本紀ヲ掲ケ、第二三卷ニハ伊國各都府ノ起源ヲ叙ス。本書ノ名義ハ此三卷ヨ

リ附シタルモノナリ。又第四卷ニハ第一ビユニツク戰前ニ在リノ頃未チ叙シ、第五卷ニハ第二ビ

ユニツク戰前ニ在リノ頃末チ叙シ、第七卷ニハ著者死去ノ當年ニ至ル迄ノ物語ヲ載ス。羅句語モ

テ綴レル書籍中ノ最モ舊キモノナリ。ソノ碎片今現存セリ。其二チデ、レ、ラスチカト云

フ。農業ニ關スル論文ニシテアウソン之ヲ出版シ、亦現存セリ。其他著書アリト雖モ、今

傳ハラズ。

左ニ氏ノ小傳ヲ記サン。

ケトローハタスカラムラチナノ人ナリノ府ムノ府。少時ソノ父死去シタルチ以テ、サバイン地方ニ於ケル少許ノ不動産ヲ繼承シ、

而シテ農業ヲ監督シ、又自ラ之ニ從事シツ、少時ノ歲月ヲ經過シタリ。十七歳ノ時第二ビユニツク戰ニ出陣シテ勇氣

ト持重トナ証シ、紀元前二百四年クエスター羅馬ノ會計官ナリ次ノニ撰ハレ、同百九十八年撤丁ノ大守ニ撰ハル。氏シセロ傳ノ註ニ詳ナリ

人ト爲リ、節儉寡慾。湯ト水トチ除クノ外、如何ナル飲料チモ口ニ取リシヲナリ、又ソノ食物ハ如何ナル粗品チ供ス

ルトモ決シテ婢僕チ叱咤セシヲナシ。左レバ撤丁ノ大守ニ任スルヤ、第一着手トシテ廳費チ節減シ、出入僅ニ一人ノ

從僕チ伴ヒ、又裁判ハ公平チ旨トシテ、寸毫モ正理ニ違フチ許サズ。殊ニ高利チ嚴禁シタリ。同百九十五年執政官ニ

撰ハル。

是レヨリ先キ、第二ビエニツク戦ノ際、政府ハ法令ヲ發シテ曰ク、「女子ハ半オンス以上ノ黄金ヲ所有スルヲ許サズ、雜色ノ衣服ヲ着用スルヲ許サズ、市街ヨリ一哩以内ノ地ニ馬車ニ乗ルヲ許サズ」ト。然ルニ今ヤハンニバルハ既ニ死シ、カーセーシ國亦滅ビテ、其財寶ハ悉ク羅馬國ニ充滿シタルヲ以テ、最早斯ル制限ヲ爲シテ女子ニ國費ヲ助ケシムベキノ必要ナシ。是ニ於テ保民官ハ同法廢止ノ議ヲ提出シ、女子亦舊時ノ裝飾ヲ恢復セント欲シテ、百方盡力シ、遂ニ朝野間ノ一問題トハ爲レリ。然レトモクトーハ獨リ此廢止ヲ不可ト爲シ、固ク執リテ風セザリキ。

紀元前百八十四年風俗視察官ニ任ス。氏ノ此官ニ任スルヤ、專心一意職務ノ爲メニ竭シ、福ノ身ニ及フト否トテ顧ミルコナク、水路及ヒ貯水所ヲ補修シ、排水渠ヲ清潔ニシ、凡テ理財上ノ弊害ヲ排除シ、其他公衆ノ利益トナルベキ事ハ、身命ヲ抛チテ之ニ從事シタリ。氏ハ實ニ國家有用ノ人材ト云フベシ。只ソノ瑕疵トスル所ハ嚴格ニ失シタルニ在リ。

氏が婢僕ヲ待遇スルヤ、殆ント之ヲ人類視セザルカ如ク、小過アレバ之ニ鞭撻ヲ加ヘテ死ニ至ラシムルコトアリ。老朽事ニ堪エザル者ハ之ヲ賣ルカ若クハ之ヲ戶外ニ放逐シテ一点ノ慈悲心ダニ示サズ。畜類ニ於ケルモ亦然リ。曾テ數年間飼養シ、屢々戰場ニ伴ヒシ名馬モ運送ノ費用ヲ省カンガ爲メニハ、之ヲ賣リテ毫モ心ニ掛ケザリシト云フ。

又氏ハ希臘美術ノ羅馬ニ傳播スルヲ患ヒテ之ヲ遮斷セント試ミタリ。是レソノ意雅典ノ學藝ト奢侈トハ羅馬人ノ勇氣ト質朴トヲ消滅セントテ之ヲ恐レタルナリ。氏ハ晩年ニ至リ、既往ヲ追想シテ左ノ三事ヲ悔ヒタリト云フ。曰ク。「陸路ヲ行キ得ベキノ海路ヲ行キタルコト」。曰ク。「一日ヲ爲スコトナクシテ經過シタルコト」。曰ク。「妻ニ秘密ヲ話シタルコト」是レナリ。

シセロ 政治家トシテ、雄辨家トシテ、哲學者トシテ、雷名ヲ轟カセリ。其政治家、雄

辨家トシテノ事蹟ハ別項ニ譲リ、只氏ノ著書ニ就テ其概略ヲ叙センニ、氏が公務ノ餘暇ヲ以テ著ハシタル書籍ハ其數頗ル多ク、枚舉ニ暇アラズ。今一二ヲ舉レバ左ノ如シ。

ブルダス 有名ナル雄辨家ノ小傳ヲ列記セルモノナリ。氏ハ云フ。「是レ等ノ雄辨家ノ演說書ハ予之ヲ閱讀シテソノ巧妙ニ感服シタリ」ト。然レトモ氏ノ演說ハ是レ等ノ諸氏ヲ凌駕セルモノナリ。

デ、オレーター(雄辨家) 氏又修辭學ニ關スル數多ノ論文ヲ著ハセリ。其尤ナルヲデ、オレータートナス。同書ハ三卷ヨリ成レリ。

エピツスルス(尺牘集) 八百篇以上アリ。古書中ノ最モ貴重ナルモノ、一ナリ。此他デ、オフ井シース。デ、アミシツタ。デ、セチクナユート。及ヒ哲學書

類演說書類若干卷アリ。

氏ノ哲學ニ於ケル、別ニ一機軸ヲ出サントハ望マズ。希臘哲學者ノ高論卓說ヲ極メテ平易ニ、極メテ面白ク翻譯セント望メリ。氏ハ最モアレト希臘文學史ノ部ニ在リヲ感賞スト雖モ、道德問題ニ至リテハ稍々厭世主義ニ傾ケルガ如シ。

國民錦囊ニ云ク。氏ハ瞬間ダモ光陰ヲ浪費セシナク、寸暇アレバ、之ヲ讀書ニ充テ、繁務ノ日ト雖モ、時々散步ヲ爲シツ、重要ノ問題ヲ默思シ、若クハ命令ヲ下スベキ事項ヲ按出シタリ。又氏ノ文章書牘ヲ見ルニ、多クハ日出前、或ハ出閣中、或ハ食事中、若クハ朝會中朝會トハ毎朝上官ノ人(例ヘバシセロノ如キ人)ニ綴リタルモノナリ。幸福要訣ニ云ク「シセロハ書籍ナキ室ヲ以テ精神ナキ體ニ譬ヘタリ」。又シセロノ金言ニ云ク。「書籍ハ少年ノ食物ト爲リ、老年ヲ樂マシメ、繁榮ヲ裝飾シ、危難ノ逃避所ト爲リ、且ツ之ヲ慰諭シ、家ニ在リテハ快樂ノ種子ト爲リ、外ニ在ルモ妨碍物ト爲ラズ。而シテ旅行ノ際ニ在リテハ夜分ノ夥伴ト爲ルナリ」ト。

是レ等ノ數語ニ由リテ考察スルハ氏ガ繁忙ノ間ニ學問ノ奧義ヲ極メシ秘訣ヲ窺ヒ知ルヲ得ベク、又氏ノ不世出ナルヲ窺ヒ知ルヲ得ベシ。アヂソン曰ク。「予ハアリストートル希臘文學ニ在リボリヒアス全上シセロノ三氏ヲ以テ、上古ノ最モ高大ナル哲學者、最モ公平ナル歴史家最モ完全ナル政治家ト爲ス」ト。所以アルカナ。左コ氏ノ零傳ヲ掲ケン。

シセロ名ハエム、ツルリアス。紀元前百六年アーバイナムグナルシノ都市ナリシセロトマリニ生レ、ボムベイト同四十三年死ス。羅馬ノ勳騎士ノ子ニシテ、古昔ノサバイン王ノ苗裔ナリ。幼時警悟絶倫。學校ニ在ルノ日ヨリ嶄然頭角ヲ見ハセリ。哲學ヲフサロ雅典ノ哲學者ナリニ學ヒ、法律學ヲミニューシアス、スカヴナラ羅馬ノ執政ナリニ學フ。紀元前八十九年内乱マリアストシラノ際、シラノ部下ニ從ヒ、戰場ニ出テ、頗ル兵事上ノ智識ト趣味トヲ得タリ。既ニシテ代官人ト爲リテ世ニ出ツ。時ニ年二十五。然ルニ氏ハ夜々汲々トシテ一心ヲ雄辯練磨ノ一事ニ委子シカバ、未ダ久シカラザルニ羅馬空前絶後ノ雄辯家ト爲リ、名聲頓ニ振フ。當時氏ガ述ヘタル演說中ニ就テ今現存スルモノヲ擧レバ、(一)ヒー、ク非ンシアスノ代官ト爲リテ述ヘタル民事訴訟演說、紀元前八(二)アメリアノセガス、ロシアスノ爲ンニ述ヘタル刑事辯護演說シラノ舊奴隷クリソゴナス、此ロシアスチ親等トス。氏人ト爲リ、溫良懇勸ニシテ稍々怯懦ニ、體軀羸瘦シテ甚虛弱ナリ。故チ以テ一ニハシラノ復讐ヲ恐レテ其危難ヲ避ケンガ爲メニ、又一ニハ健康ヲ保タンガ爲メニ、紀元前七十九年ヲ以テ羅馬ヲ去リテ、希臘ニ到リ、雅典及ヒ小亞細亞ナル哲學、修辭學ノ學校ニ入りテソノ研究ニ餘念ナカリキ。左レド氏ノ朋友ハ氏ガ不世出ノ才ヲ懷キツ、永ク異郷ノ人々ランカチ惜ミ、其歸國ヲ切望シテ措カズ。止ムナクシテ僅ニ二年ニシテ羅馬ニ歸ル。是時ニ當リテ、羅馬ニハホルテンシアス紀元前百十三年生レ同五十年死ス羅馬有名ナル雄辯家ナリ、アウレリアス、コツタナル兩雄辯家アリホルテンシアスハ、シセロヨリ長スルヲ八年、又コツタハ當時雄辯無双ナリトテ、法廷ノ王ト稱セラル。シセロノ國ニ歸ルヤ、二氏ト法廷ニ雌雄ヲ争ヒ、之ヲ屈服シタリシカバ、是ニ至リテ遂ニ雄辯無双ト稱セラル。左レバ氏ハ本外國人ノ苗裔ナリ、且ツ確實ノ之ヲ援クルナキニモ拘ハラズ、紀元前七十六年撰ハレテ「クエスター」羅馬ノ會計官ナリ其職タル(第一)租稅ヲ徵收シ(第二)文武諸事ニ必要ナル支出ヲナス「ラ學ル本來二人ノ定員ナリ」シモ共和政ノ時ニ其職ヲ追加シ而シテ二人ハ常ニ羅馬ニ在リテ他ハ皆屬地若クハ戰地ヘ派出スルヲト爲セリ

シ、西々里ニ派ス。西々里ノ民其雄辯ヲ頌シ、殊ニヴェルス。當時西々里ノ太守アリ、壓制苛酷ヲ極ム西々里人之不堪助ク其欲我昔ハノ壓制貪慾ニ抵抗シテ、己レ等ヲ倒懸ノ苦ヨリ救ヒタル恩人ナリトシテ、永ク之ヲ感佩シタリ。今猶現存セリ。

紀元前七十九年、エーゲイル、橋梁、水道等ノ監督ナリ。ニ任シ、同七十六年ブリーター、太守ニシテニ任ス。是ニ於テ氏ハ猶執政官タランコトヲ望ミシカド、其門地ナキガ故ニ、必ラズ貴族ノ選選スル所トナラント慮リテ、益々平民黨ト深ク相結託シ、又旭日ノ勢アルホムハイト交誼ナリシメメント勉メヌ。

是時ニ當リテ、カチリント云ヘル閩閩ノ人アリ。放肆無賴ニシテ家産ヲ蕩盡シ、加之ナラズ、負債ノ淵ニ沈ミシカド猶飽キ足ラズシテ豪奢ヲ極メント欲シ、貴顯士女ト惡徒無賴漢トヲ我カ味方ニ懐ケ、彼ノマリアス、シラノ例ニ倣フテ、腕力ヲ以テ共和政府ノ首位ヲ得ント決セリ。左レドシセロノ爛眼ノ角メニ看破セラレンコトヲ恐レ、之ヲ殺サント謀ル。シセロ之ヲ悟リテ彼レガ奸策ニ陷ラズ。適々此時シセロ獨ハレテ執政官ニ任ス。細密ニカチリンノ舉動ニ注目シテ果シテ謀叛ノ企アルヲ知ル。依テ紀元前七十二年十月二十一日ヲ以テ元老ヲ招集シ、議場ニ於テ之ヲ述ヘ、且ツ來ル二十八日コソ彼レガ羅馬ノ重モナル人々ヲ暗殺スヘキ當日ナリト告グ。カチリン又十一月六日ノ夜ヲ以テ徒黨ヲ會シテ速ニ叛旗ヲ揚ケント議ス。シセロ亦之ヲ探知シ、翌々八日元老ノ前ニ有名ナルカチリン攻撃ノ第一回演説ヲ成ス。カチリン聞テフサレアアノ府ニ逃ル。

同九日、カチリン逃走ノ事、一般ノ知ル所ト爲リタルノ後、シセロ公會堂ニ於テ人民ニ向テ、第二回ノ演説ヲ爲シ、次テ元老ハカチリン、マンリアスノ兩人ヲ公敵ナリト宣言シ、アントニアス、當時シセロト共ニ執政官タリ、ハ出テ、之ヲ征討スベクシセロハ留リテ羅馬ヲ警備スベシト宣言セリ。左レバアントニアスハ、ゴール(佛國)ニ於テカチリンヲ敗リ、シセロハ羅馬ニ在リテ殘黨ヲ糾治シ、而シテ元老院ハ之ヲ死刑ニ處ス。此時氏ハ公會堂ニ於テ第三回ノ演説ヲ爲セリ。

是ニ於テ氏ノ名望益々著シキヲ加ヘ、元老院議兩院ハ氏ニ國父ノ尊稱ヲ與ヘ、伊國到處氏ノ功德ヲ讚美セザルハナシ。氏モ亦自ラ無限ノ勢力ヲ得タルヲ知リテ、漸クホムハイト競争ヲ試ミキ。左レド此勢力、此名望ハ却テ氏ノ身ニ禍ヲ來スベキ基トハナリヌ。

抑モ羅馬ノ元老院ガカチリンノ殘黨ヲ死刑ニ處シタルノ舉ハ、同國憲法ノ原則ニ背戾セルコトハ疑ノ容ルベキナシ。何トナレバ、何人モ人民全体ノ同意ヲ得ルニアラザレバ、死刑ニ處セラルコトナシト云フハ同法ノ精神ナレバナリ。シセロノ敵黨之ヲ以テ失フベカラザルノ機會ト爲シ、言ヘラク、「シセロハ實ニ國家ノ元首タリ。然ルニ此不法ノ舉ヲ傍觀シツ、之ヲ制止セス。豈其責ニ任セズシテ可ナランヤ」ト。此時敵黨ノ一人クロチアス保民官ニ任シタリシカバ、シセロノ不法ヲ糾治ス。官民多クシセロニ心ヲ寄セ、殊ニ二万ノ少年ハ氏ノ無罪ヲ主張シタリシカド、復々如何トモスルコト能ハズ。シセロ遂ニ羅馬ヲ去ル。

氏ノ羅馬ヲ去ルヤ、敵黨ハ又法令ヲ出シテ曰ク、「シセロハ既ニ追放ノ刑ニ處セラレタリ。何人モ之ヲ歡迎シ、若クハ之ヲ宿泊セシムベカラズ。若シ不心得ニモ之ヲ召還サント謀ル者アラバ、公敵ヲ以テ處スベシ」ト。次テ又氏ノパラチンニ在ル邸宅、タスカラム及ヒフチミアニ在ル別荘ヲ沒收シ、之ヲ擧敗シタリ。

シセロ羅馬ニ居ラザルコト僅ニ十六ヶ月。偶々ホムハイト、クロチアスト隙ヲ生シタリシカバ、元老院ト謀リテシセロヲ呼還サント企ツ。然ルニ大多數ノ人々ハ之ヲ賛成シ、評議忽チ一決セリ。シセロノ呼還サレテ羅馬ニ入ルヤ、一同皆迎ヘテ万歳ヲ唱ヘシノミカ、中ニハ欣喜ノ餘リニ鬼神ニ感謝スル者アラリタリト云フ。實ニ紀元前五十七年ナリシザルトホムハイトノ間ニ軋轢ヲ生シ、干戈ヲ交ユルニ當リテ、シセロハ斷然ホムハイトニ左袒シテ、共ニ希臘ニ退キシガ、其後内乱平定シ、シーザル總裁ニ任スルニ及ヒテ、謙遜ヲ旨トシテ以テシセロヲ迎ヘシカバ、シセロハ其請

ニ應シテ再ヒ國ニ歸リタリト雖モ、靜閑ノ地ニ退隱シテ專ラ文學ヲ樂ミ、羅馬ニ出ルヲ稀ナリキ。
 プルタス等ガシーザルヲ刺殺スルヤ、シセロハ固ヨリ徒黨ノ加盟者ニハアラザルモ、平素シーザルノ擁護ヲ憤リ、國家
 ノ爲メニ深ク慨嘆シタルノ曉ナルヲ以テ、徒黨ノ無知ナルヲ主張シ、又マールク、アントニー等ガ私ニ野心ヲ懷ケルヲ
 知リテ之ヲ攻撃シタリ。然レドモ前者忽チ討滅セラレ、後者却テ赫々ノ光ヲ得タルニ依リ、氏ハ出テ、雅典ニ避ケリ。
 後復タ羅馬ニ歸リタルモ、常ニ暗殺ヲ恐レテ枕ヲ高フスルヲ能ハズ。此時オクタヴヰアスハ氏ト交際ヲ親密ニシ、之ヲ
 慰諭シタリシカド、アントニーハ深ク氏ガ已レテ攻撃シタルヲ啗ミ、シーザル暗殺ノ舉ニ與ミセル徒黨凡ソ二百人ヲ
 死刑ニ處スルノ議ヲ提出スルニ當リテ、シセロヲモ其中ニ包含シ、オクタヴヰアスモ亦此議ニ同意シタリ。シセロ之
 ナ聞テ逃走シタリシカド、忽チ敵ノ爲メニ追尾セラレ、遂ニ其首ヲ斬ラル。實ニ紀元前四十二年十二月ニシテ、享年
 六十三ト十一月五日ナリ。

マールク、アントニーハ氏ヲ憎ムノ極、其首ト右手トテ公會堂ニ懸ケ、アントニーノ妻フアルヰアスハ氏ノ舌ヲ抜キテ
 金針モテ數回之ヲ貫キタリト云フ。其殘忍想フベシ。

蓋シシセロガ政治家トシテノ才幹功徳ハ大ハ則チ大ナリト雖モ、其學者トシテノ才幹功徳、殊ニ其千載不朽ノ文才ニ
 至リテハ遙カニ數等ノ上ニ在ルナリ。氏一タビ自國ノ歴史ヲ編纂セント企テシモ、事情ノ爲メニ制セラレテ成ラズ。
 依テ希臘ノ歴史詩歌ヲ翻譯シ、又各種ノ書ヲ著ハセリ。前二載セタルヲ以テ茲ニ再ヒ贅セス

ヴァーロ 名ハマーカス、レンシアス。紀元前百十六年生レ、同二十八年死ス。羅馬
 共和政時代ノ大學者ニシテ、羅甸文著述家ナリ。シセロト時ヲ同フシ、且ツ其友タリ。ポ

ムペーノ副將トシテ西班牙戰ニ從ヒ、又内亂シーザルトポムペイトノ争ノ際モ同氏ノ部下ニ戰ヒテ、一旦
 シーザルノ爲メニ捕ヘラレシカド、辛クシテ之ヲ逃レ、後許サレテ公共文庫創立及ヒ管理
 ノ任ヲ囑セラル。第二三人政治オクタヴヰアス、アントニー、レノ時、被罰者ノ中ニ算ヘラレシカ
 ド、亦逃レテ踪跡ヲ晦マシ、後オクタヴヰアスノ爲メニ許サル。

著ハス所四百九十書ノ多キアリ。左レド今存スルモノハ僅ニ二書ニ過ギズ。其一チデ、
 レ、ラスチカト云フ。農業書ニシテ三卷ヨリ成ル。氏ガ八十歳ノ時ニ草セシモノナリ。
 其二チデ、リングガ、ラチナト云フ。文法書ニシテ二十四卷ヨリ成レド、今ハ只六卷ヲ
 存シ、諸所斷續セリ。

シーザル 著ハス所多シ。然レトモ今現存スルハ只コムメンタリース即チゴール
 ル戰史及ヒ内亂史ノ一書アルノミ。同書八十卷ヨリ成ル。其七卷ハゴール戰史ニシテ、
 同戰ノ當初ヨリ七年間ノ事ヲ叙シ、又他ノ三卷ハ内亂史ニシテ、アレキサンドリア戰ノ初
 ニ終ル。尤モゴール史ハ今八卷アレド、ソノ第八卷ハハ―シアスノ作ナラントノ説アリ。
 又内亂史モ同氏ノ作ナラントノ説モアレド確乎タラズ。

シーザルノ文体ハ平易簡明ニシテ羅甸文中ノ上乘ト稱スベシ。只惜ムベキハ兩書共ニ其頓末ヲ完成セズシテ半途ニ之ヲ止メタル事トス。左レドコハ姑ラク問ハズシテ可ナリ。

因ニ云フ。ハーシアスハ羅馬ノ執政官ナリ。アルタスタ助ケ、マーク、アントニーヲミューチニアニ圍ミテ之ヲ敗ル左レド戰死セリ。前既ニ述ヘシ如クゴール戰史第六卷等ハ、史家ハーシアスノ筆ニ成レリト云フ。此ハーシアストハ即チ執政官ハーシアスト同一人ナルベシ。而シテ是レ等ノ書ハソノ文体ノ古風ナルニモ拘ハラズ、之ヲシーザルノ筆ニ成レルモノニ比スレバ、遙カニ數等下ナリ。

左ニシーザルノ小傳ヲ掲ケン。

シーザル生レナガラニシテ穎異。少時大志アリ。ローヅ島地中海ノ一島ニ赴キテ、碩學モロノ子アホロニアスニ學フ。アホロニアスノ門下多ク人物ヲ出ス。而シテ最モ擢ンテタル者ヲシーザル及ヒシセロ前在リノ兩人トス。シセロ曾テシーザルヲ評シテ曰ク。「此人綿中針ヲ裏ム。若シ志ヲ得バ羅馬ノ人民ハ奴隸タラザルヲ得ザラン」ト。是レヨリ先キ、羅馬ニマリマス、シラト云ヘル二人ノ案傑アリ。互ニ權力ヲ爭ヒ、黨派ヲ樹テ、相軋ス。後マリマス死シテ、シラ羅馬ノ全權ヲ掌握ス。シーザル年尙少キ時コル子リアヲ娶ル。マリマスノ親戚シンナノ女ナリ。シラ全權ヲ掌握スルニ及ヒテ、シーザルニ妾ヲ離別スベキヲ勸ム。シーザル固ヨリ己ヲ托ゲテ權貴ニ媚アルヲ欲セズ。シラ大ニ怒ル。初メシラ、マリマスノ黨派ヲ悉ク誅罰ス。只シーザルノミ免カル、ナ得タリ。茲ニ至リテ、シラ亦シーザルヲ殺サントス或人曰ク。「童子能ク何事ヲカ爲サン」シラ曰ク「然ラズ。マリマスノ黨人、他ハ皆與ミシ易キノミ。獨リ此子ニ至リテハ眞ニ恐ルベキナリ」ト。シーザル之ヲ聞テ、サバインニ逃ル。續テビシニアニ航シテ、同國ノ王ニコメダスニ

依ル。止マルヲ數月。歸路フアーマカサ島近海ニ於テ海賊ノ群ニ逢フ。シーザルノ船ヲ圍ミテ行カシメズ。且ツ眼金トシテ二万圓ヲ求ム。シーザル笑テ曰ク。「汝等予ノ價值ヲ知ラザルカ」ト。五万圓ヲ與フベキヲ約ス。然レトモ囊中ノチ有セズ。依テ金策ノ爲メニ僕ヲ四方ニ奔ラセ、朋友一人、從者二人ト共ニ賊船中ニ止マルヲ三十八日。其間毫モ彼レ等ヲ怯ル、トナク、詩ヲ賦シ、文ヲ風スルトキハ感賞セヨト命シ、若シ感賞セザルトキハ之ヲ鈍物鹽夷ト罵リ、又ハ誅戮スベシト脅カシ、又眼ニ就クトキハ沈黙セヨト命セリ。ソノ有様ヲ譬ヘテ言ヘバ、彼レ等ハ氏ノ看守ニアラズシテ、寧ロ其護衛ナルカ如シ。後ミレタスシクレイツヨリ金ヲ得テ之ヲ投シ、自由ノ身ト爲レリ。

シーザルノ羅馬ニ歸ルヤ、專ラ人心ヲ收攬スルヲニ勉ム。偶々マリマスノ未亡人ジュリアシーザルノ伯母死ス。シーザル其葬ニ會シ、慷慨悲壯ノ演說ヲ爲シテ、人民ノ感情ニ訴ヘ、又同時ニマリマスノ肖像ヲ會衆ニ示シテ以テ獻款ニ堪エザラシメタリ。但シマリマスノ肖像ハ、シラ就職以來見ル能ハザルモノナリ。人或ハシーザルノ違法ヲ詰ラントスル者アリ。然レトモ多數ノ爲メニ壓倒セラレテ亦如何トモスルヲ得ザリキ。羅馬ノ慣例、老婦ノ葬禮ニ其生前ノ功德ヲ稱揚スルヲ常トス。少婦ノ爲メニハ之ヲ稱揚スルヲナシ。シーザル此慣例ヲ破リ、シーザル夫人ガ早世セシ時、巾ノ詞ヲ述ヘテ聽衆ノ同感ヲ買ヒ、溫良懇切ナリトノ名聲ヲ博セリ。是時ニ當リテ、マリマス黨ノ勢力、地ニ墜チテ有、無ノ如シ。シーザル之ヲ挽回セント欲ス。一夜マリマスノ肖像ヲカビトル羅馬ノ伽藍ニ建テ、其功績ヲ旌表ス。翌朝忽チ四方ニ喧傳ス。都人士女爭フテ之ヲ觀ル。或ハ曰ク。「是レ必ラズシーザルノ所爲ナラン。宜シク之ヲ法ニ問フベシ」ト。然レトモマリマス黨ノ人々ハ來リ觀テ感泣ニ堪エズ。竊カニシーザルヲ欽慕シ、忍リテ以テ黨勢ヲ恢復セント企ツルモノアリ。是レ等ノ諸事ニ由リテ、シーザルノ名望ハ頓ニ旭日ノ勢ヲナセリ。

シーザルノ糾彈官ニ任スルヤ、任所西班牙ニ赴ク。是レヨリ先キ、紀元前六十三年シセロ羅馬ノ執政ニ任ス。羅馬ノ

元老皆シセロノ博ヲ貴ヒ、其雄辯當時羅馬ニ於テシセロ第一ノ雄辯家ニ服シ、人民亦望テ風シテ國父ト稱ス。シセロ常ニシールノ爲ス所ヲ攻撃ス。シールノ之ヲ街ム。紀元前六十年シールノ西班牙ヨリ歸ルヤ、先ツポムベイ及ピクラツサスノ二人ト相結托シ、以テ大ニ爲ス所アラント欲ス。ポムベイハ前年東征ヨリ凱旋シテ頗ル民望アリ。シセロノ權力ノ強大ナルヲ見テ、不平ニ堪エザルモノナリ。シール乃チ女ジュリアヲポムベイニ娶シテ益々交ヲ深クシ、謀リテ元老ノ權力ヲ削グ。

紀元前六十年シール執政ニ任ス。クロシヤツフヲ薦メテ督政ト爲ス。シセロ出奔ス。是ニ於テシールノ權最モ強盛ヲ極メリ。

數年前ヨリ、北京ノ蠻夷屢々來リテ羅馬ノ邊境ヲ侵ス。シール之ヲ懲ラサント欲シ、驍將アリオホスカスト戰テ之ヲ追ヒ、進ンテゴール(佛國)ノ全土ヲ略シ、勝ニ乘シテ英吉利ヲ征伐ス。ポムベイ羅馬ニ在リテ、遙カニシールノ功ヲ妬ミ、クロシヤツフヲ退ケ、シセロヲ外ヨリ歸ラシム。シセロノ人望復々漸ク隆ナラントス。シール之ヲ聞テ大ニ怒リ、將ニ爲ス所アラントス。偶々ジュリアシールノ女ノ死スルニ會ス。シール益々ポムベイト絶ナテ、獨リ羅馬ノ大權ヲ握ラント企ツ。ポムベイ固ヨリ之ヲ知レリ。依テ元老諸官ト謀リテ、シールノ兵權ヲ解キ、速カニ羅馬ニ歸レヨト命ス。シール怒リ、歸リテ羅馬ニ抵敵セント決ス。歸路羅馬、ゴール間ヲ流ルルピコン河ニ至ルシール以爲ラリ、「既ニ兵ヲ率テ此河ヲ涉レル以上ハ、羅馬ノ敵タラザルヲ得ズ。我方兵少ク彼レノ兵多シ。如何スベキヤ」ト。將來ヲ慮リテ狐疑躊躇スルヲ數分。後斷然意ヲ決シテ之ヲ涉リ、不意ニポムベイヲ襲フ。ポムベイ大ニ驚キ、諸官ト共ニ海ニ航シテ東走ス。シール北グルチ追フテ各所ニ戰ヲ交ユ。後ハルサリアノ戰ニ、ポムベイノ軍大敗シテ潰ユ。ポムベイ埃及ニ遁ル。埃及人ノ之ヲ殺シテ首ヲシールニ捧グ。シール之ヲ凝視シテ涕泣スルヲ久

シ。大將ノ禮ヲ以テ厚ク之ヲ葬ル。シール埃及ニ止マルヲ數月。紀元前四十八年羅馬ノ總裁ニ任ス。乃チマールク、アントニーヲ伊太利府ノ太守ニ任シ、又ポムベイノ殘兵ノ諸所ニ散在セルモノヲ伐チテ、悉ク之ヲ收ル。

紀元前四十四年、シール羅馬ニ凱旋シ、屬地ヲ以テ其將卒ヲ封ス。是ニ於テジュリアア暦ヲ改ム。此暦ハ現時ノ太陽曆ト大異ナキモノナリ。又法令ヲ編纂シ、教化ヲ布キ、學校ヲ設ケ、農工商ヲ獎勵シ道路ヲ修築シ、溝渠ヲ疎通シ、城邑宮室ノ兵燹ニ留レルモノヲ再造シ、學者ヲ招致ス。人民、シールノ尊フベク、慕フベキヲ知リテ、之ガ爲メニ奴隸ニセラルトヲ知ラズ。アルタス等之ヲ愛ヒ、遂ニシールヲ講事堂ポムベイノ像下ニ刺シテ之ヲ殺ス。實ニ紀元前四十四年三月十五日ナリ。後シールノ猶子オクタヴス後ニアウガ及ヒマール、アントニー等刺客ヲ逐ヒ、オクタヴス非アス羅馬帝ノ位ニ即ク。羅馬遂ニ帝政ト爲ル。

サラスト カイアス、サラスタアス、クリスパスハ紀元前八十六年生レ、同三十四年死ス。サバインノ人ナリ。同四十六年内乱ノ際、シールニ從テポムベイヲ敗リ、功ヲ以テヌミヂア阿非利加洲ノ内地ニ在リノ太守ニ任セラル。職ニ在ルヲ數年。人民ノ膏血ヲ絞リテ莫大ノ富ヲ致セリ。羅馬ニ歸ルノ後、郭外ノ地ニ宏壯ナル邸宅ヲ築造シ、百花爛熳タル花園ヲ以テソノ周圍ヲ繞ラセリ。世ニサラストノ花園トテ有名ナルハ是レナリ。又此邸宅ハ後年羅馬累世ノ諸帝ガ好テ宮室ニ充テタリシガ、アラリツクノ部下ノゴッス人ガ羅馬府ヲ侵襲スルニ及ヒテ火災ニ罹レリ。

著ス所三書アリ。今其二書ヲ存シテ一書ヲ欠ク。而シテソノ存スルモノヲ學レバ、(第一) カナリナ即チカナリンノ謀叛前ノシヒロ備ヨリ其鎮定ニ至ル迄ノ顛末ヲ述ヘタルモノ。(第二) シユガーサ即チシユガーサ征伐シユガーサハ阿非利加洲ノ國ニシテ、シユガーサノ次子マナスダバルガ一サトニ國ヲ讓ル。然ルニシユガーサハ兩子ヲ逐フテ獨リ王位ニ即キシカバ、兩子ハ之ヲ羅馬ニ訴ヘテ援ナ乞フ。シユガーサ羅馬軍ニ敗ラレ、囚虜ト爲リテ獄中ニ死ス。シユガーサ征伐トハ即チ此戰ノ事ヲ云フナリ。ノ顛末ヲ述ヘタルモノ、二史トス。又今傳ハラザルモノハ、シラノ死去ヨリカナリンノ叛逆ニ至ル迄ノ羅馬史ナリト云フ。

氏ハ專ラサシデス希臘文學史ノ部ニ在リノ文法ヲ學ヒ、一ニ其模範ヲ之ニ執レリ。而シテ簡ニシテ明ナルハ氏ノ長所ト云フベキナリ

第三篇 羅馬文學ノ第二期

帝政時代ノ文學

自アウガスダス帝即位紀元前三十一年至西帝國滅亡紀元後四百七十六年

第一章 アウガスダス帝ノ治世ニ於ケル文學

共和政時代ノ文學ト比較

共和政時代ト帝政時代トハ、之ヲ年代ヨリ言フハ、ソノ相距ルコト僅々ニ過ギズト雖モ、其文學ノ精神趣味ニ至リテハ、霄壤ノ差異アルナリ。是レソモ何ニ由ルカ。願フニアウガスダス帝ノ保護ト干涉トガ之ヲシテ然ラシメタルニ由ラズンハアラザルナリ。讀者若シ予ノ言ヲ疑ハ、請フシセロ即チ共和政時代ノ人ノ文章ヲ執リテ、之ヲヴァーシル後ニ在リアウガスダス帝ノ文章ト對照セラレヨ。ヴァーシル、ホレーヌノ文章、金玉ハ則チ金玉ナリト雖モ、自ラ獨立ノ活氣ヲ失ヒ、阿諛ノ迹ナキヲ得ズ。況ンヤ二氏ヨリ下レルモノニ於テヤ。例ヘバ、ヴァーシルノ傑作「エニード」後ニ在リニ羅馬帝ヲトロイ王ノ子孫即チ神裔ナリトスルガ如キ、オウピッドノ傑作「万事變化」後ニ在リニシザルガ星ニ變セシ事ヲ叙スルガ如キ、將タ當時ノ文學保護者メセナスガプロパーシアス二氏共ニ後ニ在リニ向テ、陛下アウガスダスヲ主人公ト爲セル小説ヲ作ランコト望ミタルガ如キ、皆文學ガ獨立ノ活氣ヲ失ヒ、阿諛ノ痕迹ヲ現ハシタルモノニアラズシテ何ソヤ。

然レドモ、アウガスダス帝ハ少壯ヨリ學問ヲ好ミ、万乗ノ主ト爲ルニ及ヒテモ猶讀書ニ精

アウガスダス帝ノ隆盛

神ヲ擬テシ、夜半ニ至ルモ寢ニ就カザルヲアリ。又希臘文學ヲ嗜ミ、繪畫彫像類ヲ集メ、二大公共文庫ヲ羅馬市ニ建設シタル等ノ諸事ニ由リテ考フル片ハ、其文學的趣味ヲ充分ニ有セルヤ知ルベシ。左レバ、帝ノ文學ヲ獎勵シ、學者ヲ保護スルハ、本來人心ヲ此一點ニ湊合シ、之ヲシテ往時ノ自由ヲ想起スルノ暇ナカラシメントノ奸策ニ出テタルヲ、恰カモ清ノ康熙帝ガ學者ニ字典編纂ノ事ヲ囑托シタルト同一轍ノモノナラントハイヘ、抑モ亦帝ガ中心ヨリ文學ヲ好ミ、學者ヲ愛スルニアラズンバ、焉ソ能ク僅小ノ歲月ニ數多ノ人物書籍ヲ輩出セシムルヲ彼レガ如キヲ得ンヤ。

其衰滅ノ所以カリシ所以

只惜ムラクハ、其文學ノ隆盛ヲ致セル決シテ自然ニ出テタルニアラズシテ、人爲助長ノ手段ニ由リタルガ故ニ、其隆盛ヤ室咲ノ無根草ノ如ク、明智ノ三日天下ノ如クナリシヲチ。左レバ一朝帝ノ崩スルヤ、從來爛燦トシテ人目ヲ眩惑セシメシ文學界モ、忽チニシテ舊時ノ矇矓暗黒ニ復セシノミカ、更ニ一躍シテ咫尺ヲ辨セザルノ暗黒界ト迄ニ成リ下ガレリ。噫々帝ヲシテ初ヨリ獎勵保護スルヲナカラシメタランニハ、此虛偽ノ隆盛モナク、此真正ノ衰頹モナカリシナランモノチ。帝ノ之ヲ獎勵保護スル所以ハ則チ之ヲシテ活氣ヲ失ヒ、

衰滅ニ陥ラシムル所以ナリ。干涉ノ害、茲ニ至リテ明カナリト云フベキナリ。

第二章 アウガスタス時代ノ詩歌

アウガスタス時代ノ詩人

アウガスタス時代ノ詩人中、ソノ巨擘ト稱スベキハ、ヴァーシユル、ホレウスノ二氏トス。殊ニヴァーシユルニ至リテハ、獨リ同時代詩人ノ巨擘ト稱スベキノミニ止マラズ、羅馬無双ノ詩人ニシテ、ホーマー以來空前ノ名作ヲ遺セリ。左ニ諸氏ノ小傳ト著書トニ就テ述ヘン。

ヴァーシユル 姓名テパブリウス、ヴァーシリアス、マロト云フ。紀元前七十年シザル

ピンゴールナルマンチユア近傍ノ一小村アンデスニ生レ、同十九年死ス。アウスガタス時代無比ノ詩傑ナリ。少時クレモナチンザルペンゴールナルマンチユア近傍ポー河畔ノ地ニ在リテ學ヲ修メ、才能ヲ上進シ

趣味ヲ發達シ、又テープルスニ赴キテ更ニ一層學術ヲ研究セリ。氏ハ父ノ遺産トシテ少許ノ土地ヲ繼承シタリシモ、紀元前四十二年フキリツピーノ戰オクタグ非アスガマール、ア以後ソ

ノ所有地ハオクタヴ非アスノ部下ノ軍士ノ分領スル所ト爲リシカバ、氏ハ我カ所有權ヲ主張シタリシカド、一軍士ハ無法ニモ死ヲ以テ脅迫シタルニ由リ、自ラ河中ニ投シテ辛クモ

其場ヲ逃レ、父ト共ニ羅馬ニ到リテメセナス羅馬ノ勳爵士ナリ學者文人ヲ保護シタルヲ以テ名ヲ後世ニ遺セリト親交ヲ結ヒ、メセナスニ頼リテアウガスタス帝即チオクタヴスニ請願シタリシニ、帝ハ早速其請ヲ允シ、彼ノ土地ヲ還付セシニヅ、氏ノ喜ビ一方ナラズ。第一牧歌(ファースト、エクログ)即チ山家ノ狀ヲ詠スル詩ヲ作リテ、恩ヲ謝シ、幸運ヲ大方ニ告白シタリ。是レヨリ後三年ノ間ニ編ヲ次キテ第十

牧歌ニ至リシト云フ。

シヨージツ
クス

既ニシテ又シヨージツクスヲ著ス。同詩ハ羅甸文中ノ最モ精巧完璧ナルモノニシテ四卷ヨリ成リ、農業、栽培、家畜飼養、蜜蜂飼養ノ事ヲ記セリ。又此詩ノ草稿ヲ脱シタルハ紀元前三十一年アクチアム戰アウガスタス帝ガ埃及女王クレオパトラト羅馬ノ將軍マークアントニトヲ敗リシ戰ヲ云フ以後ニ在リテ、帝ガ同地ニ滞留セシ時ノ事ナリ。

エニード

其後又アウガスタス帝ノ需ニ應シテ、史詩中ノ傑作エニードヲ著ス。同詩ハホーマーノ詩イリアッド及ヒオダッセイナ云フニ倣フテ、エニアスガトロイ戰後ニ諸方ヲ遍歴シ、伊太利ニ住宅ヲ定メシコヲ詠シタルモノナリ。今先ツホーマーノ詩ニ據リテ、エニアスノ小傳ヲ叙シ、次ニエニードノ結構ヲ叙セン。

(ホーマーノ詩拔萃) エニアスハトロイ公子ナリ。美麗ノ女神ウヰナス之ヲ生ム。赤子タリシ時、一海神(但シ女神)ニ養育セラレ、五歳ノ時、トロイニ歸ル。後希臘ニ赴キテ、七賢人ノ一ナルクロンノ教ヲ受ケ、歸國ノ後、プリアム王ノ女クリウサヲ娶リ、アスカニアスヲ生ム。トロイ戰ノ際ニ、國ノ爲メニ奮戦シタリシモ、國ヲ希臘人ニ賣レリトノ讒ニ逢ヒ、プリアムト隙ヲ生セリ。トロイ軍敗レ、トロイ城兵燹ニ罹ルニ際シテ、エニアスハ父アンカイセスト女神ノ肖像トナ肩ニシ、我カ子アスカニアスノ手ヲ曳キ、我妻クリウサニハ追尾シ來レト命シテ去リヌ。

以上ハ、ホーマーノイリアッドニ載スル所ニシテ、諸家ノ說皆同シ。然レドモ、エニアスガトロイ城ヲ去リシ後、何處ニ行キテ如何ニ生涯ヲ過セシヤ。此点ニ於テハ、我邦ノ義經ノ行衛ト一般ニシテ、諸記者ノ叙スル所同シカラズ。或ハ曰ク。一旦アイダ山ニ退キテ二十艘ノ船ヲ造リ、居住地穿鑿ノ爲メニ出帆シタリト。或ハ曰ク。否々、トロイニ留リテ居城ヲ再築シ、王位ヲ子孫ニ傳ヘタリト。ホーマーモ亦「エニアス及ビ其子孫ハ天命ヲ受ケテトロイニ君臨スレト云ヘリ。然レドモゾアールハ、羅馬帝チエニアスノ子孫ナリト唱ヘ、エニアスハ伊太利ニ住居ヲ定メタリト主張セリ。

エニードノ結構

(第一卷)主人公エニアスハ七年間諸方ヲ遍歴シタルノ末、地中海ヲ航シ、阿非利加ノ沿岸ニ於テ破船ノ厄難ニ逢ヒダイダイダタイアノ王ベラスノ女ナリエニアスノ時代トハ二百四十餘年ヲ距リテ在レドゾアールノ詩ニ據レバ阿非利加ニ住スルノ際エニアスヲ見テ忽チ愛戀ノ情ヲ起シ之ヲ歡待シタリシモ、後之ヲ良人ト爲ス能ハザルヲ知リ悲ミテ死セリノ爲メニ歡待ヲ極メラル。

(第二卷)エニアスハ、フエニシア女皇即チダイドナリ初メフエニノ需ニ應シテ、トロイ滅亡ノ顛末並ニ落城ノ際、一

面ノ失火中ヲ逃レ出テ、アイダ山ニ到リシ頃末ヲ述フ。

(第三卷) エニアス猶語ヲ次キテ、航海中暴風雨ニ遭ヒシ事、及ヒシクラテス群島イリシアンニ上陸セシ事ヲ述フ。

(第四卷) ガイド、エニアスニ懇情ヲ示ス。エニアス聞カズシテ去ル、ガイド失望ノ餘リニ自殺ス。

(第五卷) エニアス、西々里ニ航シ、此地ニ於テ父ノ遺善ヲ營ミ、夫レヨリ伊太利ニ向テ解纜ス。

(第六卷) エニアス、仙境(エリシアン、フギールド) 歐洲古代ノ鬼神傳ニ載スル所ノ極樂ノ地ナリ善人君子ハ死後ニ此地ニ至ルト云フ而シテ其所在ノ場所ニ就テハ諸説一ナラズ或ハ大西洋中阿非利加沿岸ノフチーチユ子ト島中ニ在リト稱シ或ハユキシン海中ノ小島リウスニ在リト稱ス又ウァー

ーシルハ伊太利ニ在リト云ヒルシアン(希臘ノ著述者)ハ月ノ近邊ニ在リト云ヒブルタークハ大地ノ中心ニ在リト云

ハニ於テ亡父王ニ逢フ父王之ニ其運命ト其子孫タル羅馬人ノ運命トヲ告グ。

(第七卷) エニアス、天命ノ定ムル所ニ由リテ、ラチアスノ地ニ到着シ、ラタリ王ターナスト條約ト結ブ。左レドシユ

ノ一女神ナリ常ニハターナスヲ煽動シタリシカバ、ターナス遂ニ約ニ背キテ、エニアスヲ伐ツ。勢頗ル猖獗ナリ。

(第八卷) エヴァンゲーアーカザア王子ナリ國ヲ去リテ伊太利ニ到リ將來羅馬ノ建ツベキ部分ヲ支配 エニアスヲ援ケ、

グ非ナス 前ニ在リ女神ニシテ亦ヴァルカン 火及ヒ技藝ナリノ造リタル楯ヲ與フ。此楯ハ羅馬國民將來ノ名譽

勝利ヲ表セルモノナリ。

(第九卷) 兩軍激戦アリ。エニアスニ伊國ニ從ヒタルナイサス アイダ山上ニ生ルハ、ユーリアラス トロイ人ナリ亦エニ

ト不朽ノ交ヲ結ヒ、夜ニ乘シテ敵陣ニ忍ヒ入り、數多ノ敵ヲ斬殺シタルノ後、歸去ラントス。偶々敵ノ追フ所トナリ

テ二人共ニ死ス、敵其首ヲ鎗頭ニ貫キテ携へ去ル。

(第十卷) シユヒター 諸神中ノ最モ勢グ非ナストシユノ一 二者共ニ女神ナリグ非ナスハトロイニ惠ミシユノ一ハ之ヲ讐敵視ストノ間ニ調停ヲ試ム。此間

戰爭復々起リ、パラス 前ニ記セル王エグ 戰死ス。エニアス之ガ讐ヲ復セントテ敵王ターナスヲ射殺サントシタリシカ

ド、シユノ一ノ爲メニ妨ケラレテ果サズ。

(第十一卷) エニアス、ラチナムト歩ミ合ヒノ和解ヲ爲ス。ラチナムハ伊國アポリジンスノ王ナリエニアスノ伊國ニ着

ターナス之ヲ遮ルターナストエニアストノ間ニ戦ヲ交ユルニ及ヒテラチナム王ノ封土ハ戰地ト カミリア ヴナルシノ女

爲ル後王ハエニアスト和約ヲ結ヒ愈々我カ女子之ヲ娶スエニアス亦同地ヲ攻ムルヲ爲サズ 王ナリターナ

スヲ戰死ス。

(第十二卷) ターナス、エニアスト決闘ヲ爲シテ勝敗ヲ定メント約ス。シユノ一之ヲ妨グ。依テターナスノ軍ハ、エニ

アスノ無キキ時トシテ、トロイ軍ヲ伐チテ大ニ之ヲ敗ル。然レトモエニアスガ軍ニ歸ルニ及ヒテ、トロイ軍再ヒ振フ

エニアス遂ニターナスト決闘ヲ爲シテ之ヲ殺シ、トロイノ勝利ニ決シテ本詩ノ局ヲ結ブ。

此詩ヲ閱スルニ、第一卷ヨリ第六卷ニ至ル迄ハ、オヂセーホーマーノ作ナリ希臘文學史ノ部ニ詳ナリ 中ニ在ルユリツ

セスガ諸方ヲ遍歴シ、危険ニ遭遇スルノ狀(サマ)ニ則リ、第七卷以下ハ、エニアスガ伊國

ニ在リテ敵軍ト戦ヲ交ユルノ顛末ヲ述ヘタルモノニシテ、イリアツド亦ホーマーノ作ナリ同上 中ニ在ル

戰爭ノ項ニ則レリ。或ル批評家曰ク、「ホーマーノ作ハ、ヴァーシルノ作ヨリ優レルニハ相

違ナシ。然レトモ、コハ只ホーマーノ作ハ舊クシテ原造ナリト云フノ一事ニ於テノミ優レ

ルモノニシテ、ソノ文章ト結構トニ於テハ二者毫モ優劣アルコトナシ」ト。其ノ果シテ然ル

ヤ否ヤハ今遽カニ確定シ難ケレド、姑ラク載セテ參考ニ供ス。

ヴァーシユル此詩ヲ草スルガ爲メ二十一年ノ星霜ヲ費シタルモ、猶未ダ校定ノ場合ニ運バズ。時ニ病危篤ナリ。乃チ家人ニ言ヘラク、予死スルノ後ハ必ラス此草稿ヲ火中ニ投セヨ。決シテ世ニ現ハレシムルコト勿レト。左レドアウガスタス帝ハ我カ家系ノトロイ王ヨリ出タルヲ証スル詩ノ烏有ニ歸スルヲ好マズ。依テ氏ノ死後ニ之ヲ保存セシメ、此傑作ヲ後世ニ傳フルヲ得セシメタルハ幸トコソ云フベケレ。

氏ハ身体常ニ虚弱ナリシカバ、僅ニ五十一歳チ一期トシテ死去シタリ。遺骸チチープルストポツズオリトノ間ノ地ニ葬ル。其石碑ハ今猶存スト云フ。

氏人ト爲リ、寛大懇篤、毫モ猜忌嫉妬ノ念ナシ。其名聲ハ生前既ニ世人ニ知ラレ、年ヲ經ルニ從テ益々四方ニ轟ケリ。氏ハ實ニ羅馬隨一ノ文學家ト稱スベキナリ。

ホレーヌ

ホレーヌ 姓名ハクシソタス、ホレシアス、フラツカス。紀元前六十五年アピユリアナルヴエナシアニ生レ、同八年死ス。父ハ元奴隸タリシガ、氏ノ生前既ニ解放セラレテ自由ノ身ト爲リ、収税官ノ職ヲ奉ゼリ。左レバ富メリト稱スベキニハアラザルモ、極貧トハ云

フベカラザルヲ以テ、幼稚ナルホレーヌチ郷里ノ小學校ニ入ラシムルヲ得タリ。

ホレーヌ十二歳ノ時、父ニ從テ羅馬ニ到リ、勳爵士若クハ元老ノ子弟ガ受クベキホドノ教育ヲ受ケ、當時最良ノ名アル諸學校ニ出入シテ、希臘羅句語ヲ修メ、ホーマー希臘文學史ノ部ニ在リ

ソドロニカス前ニ在リ諸氏ノ傑作ヲ學ヒ、十八歳ノ時、雅典ニ行キテ哲學ヲ修ム。偶々此時ブルタスハ、シーザルヲ刺殺シ畢リテ雅典ニ來リシカバ、氏ハブルタスノ軍ニ從テフヰリツピ

ノ戰場ニ出陣シタリ。然レドモ人ト爲リ怯懦ナルヲ以テ自ラ軍人タルニ適セザルヲ知り、敗軍ノ後、羅馬ニ歸リテ専ラ詩作ニ心ヲ委テリ。當時父ヨリ傳來ノ土地ハ官ノ爲メニ沒収

セラレシカド、財囊ノ底ヲ拂フテクニスシセロ傳ノ部ヲ見ヨ附ノ書記ノ職ヲ購ヒ、節儉ニ節儉ヲ爲シテ辛クモ日々ヲ送ルヲ得タリ。

既ニシテ其詩ハヴァーシユル等ノ注目スル所ト爲リ、ヴァーシユル、氏ヲメセナス前ノヴァーシユル傳ヲ見ヨニ紹介シタルニツ、忽チニシテ親友ト爲ルニ至レリ。時ニ紀元前三十九年ナリ。ヴァーシユル

又氏ヲアウガスタス帝ニ紹介シ、帝ノ親友タラシム。帝氏ヲ尙書ニ任セントス。氏辭シテ受ケズ。然ルモ帝ハ毫モ慍色ナク、氏ヲヴァーシユル等ト均シク歡待スルヲ殆ント家人ノ如シ。

一日帝晩酌ヲ傾ク。ヴァーシル其右方ニ在リ。ホレーヌ其左方ニ在リ。帝戯レテ曰ク。「噫々予ハ泣涕嘆息スル者ナリテ圍繞セラレタリ」ト。是レヴァーシルハ常ニ虚弱ニシテ呼吸塞迫シホレーヌハ夙ニ眼病ヲ患ヒテヨリ、常ニ涙ノ爲メニ兩眼濡フヲ以テナリ。氏年五十七歳ニシテ死ス。

氏身体短小。黒髮黒眼。體質虚弱ニシテ殆シト病マザル日ナシ。性酒ヲ嗜ムモ亂ニ及バズ。終身娶ラザリシト云フ。

著ハス所大略五種アリ。(一)短歌集(オーツ)、(二)諷詩集(サダイアス)、(三)長短詩集(エポーツ)、(四)尺牘詩(エピツスルス)、(五)詩法(アート、オフ、ポエトリ)是レナリ。尺牘詩ハ、ルクレシアスノ詩集、ヴァーシルノジョーシツクス、シユヴェナルノ諷詩集ト共ニ羅匈韻文中ノ最モ完璧ニ、最モ斬新ノモノト云フベシ。詩法ハ詩人ト爲ルノ難キヲ論シ、少年詩才ナキ者ガ猥リニ詩人ト爲ラントスルヲ誡メタルモノナリ。

オヴヰツド 姓名ハバブリアス、オヴヰチアス、チーソ。紀元前四十二年サルモニ生

レ、紀元後十八年死ス。有名ナル羅馬ノ詩人ナリ。父、氏ヲ法律家タラシメント欲シ、夙ニ羅馬ニ送り、又十六歳ノ時、雅典ニ移シテ、専ラ法律ヲ修メシム。然レトモ氏ハ天賦ノ詩人ナレバ、其修メタル所ハ法律ノ資料ト爲ラズシテ、却テ詩歌ノ資料ト爲リ、父ガ屢々ホーマーハ生涯極貧タリシトノ一事ヲ引証シテ氏ヲ誡メタルモ其性癖ヲ抑制スルヲ能ハザリキ。左レバ、判事ニ任シタリト雖モ、其心ハ一ニ詩歌ニ向ヒタルガ如シ。是ニ於テ詩人トシテノ名聲大ニ振ヒ、ヴァーシル、ホレーヌ、プロパーシアス次ニ在リチハラス同等皆ソノ親友タリ。アウガスタス帝モ亦頗ル氏ヲ保護セリ。

戀愛術

紀元後九年氏ハ不意ニ退居ノ命ヲ蒙リ、帝國ノ邊境ユーキシン海上ノ一都府トミニ追放セラル。此追放ノ原因ニ就テハ諸説紛々トシテ一定セズ。或ハ曰ク。「戀愛術(アース、アマトリア即チアート、オフ、ラブ)ト題スル詩ヲ作リタルニ由リテナリ」ト。成ル程當時名義トスル所ハ然カナリシナラン。然レドモコハ只名義ノミ。其他ニ何カ真正ノ原因ナカルベカラズ。或ハ曰ク。「氏ハ帝ガ皇女ジュリアト道ナラヌ事ノアリタルヲ知レルニ由リテ、帝ノ忌ム所ト爲リタルナリ」ト。又曰ク。「氏ガ皇后リヰヰアト情ヲ通シタル

万事ノ變化
(メタモル
フナシス)

ニ由リテナリ」ト。今其如何ヲ決スルヲ能ハズ。トミニ在ルヲ九年ニシテ死ス。著ハス所、數多ノ戀歌ノ外ニ數種アリ。(一)万事ノ變化(メタモルフナシス)ハ十五卷ヨリ成ル。天地開闢ヨリシーザルニ至ル迄、万事ノ變化ノ狀ヲ叙シ、又ジーザルガ星ニ變シタルノ狀ヲ叙セル小説体ノ詩ニシテ、鬼神傳若クハ口碑ニ存スル事項ヲ編纂セルモノナリ。(二)フアスナハ十二卷ヨリ成ル。而シテ今存スルハ六卷ノミ。此詩ハ羅馬古代

悲歌集

ノ教儀、禮式、祭日、供物ノ事ヲ述ヘタルモノナリ。(三)悲歌集(エレジース)ハ退居中ノ筆ニ成レルモノニシテ、種々ノ趣旨ニ由リテ叙セリ。其他著書ノ數多シ。

チバラス

チバラス 姓名ハチバラス、アウラス、アルビアス。或書ニ氏ハ紀元前三十年ニ生ルト羅馬ノ

勳爵士ニシテ、有名ナル詩人ナリ。紀元前三十一年保護者メツセーラ初メアルタスニ左祖シアウ

戰フ後アウガスタスト和解シ紀元後九年七十七歳ノ高齡ニテ死ス一揆鎮定ノ爲メニアクキタニアニ出張スルニ會シ、氏ハ同地ニ從

フ。翌三十年メツセーラ又東洋ニ向フ。氏亦之ニ從ヒシカド、病ノ爲メニ半途ヨリ羅馬ニ

歸リ、久シカラズシテ死セリ。氏ノ死去ハウアイシルノ死後數日ノ間ニ在リ時ニ猶壯年ナリト云フ

悲歌

著ハス所數篇ノ悲歌アリ。其尤ナルチ我カ情婦デリア、プローシア等ノ美麗チ譽メ、殘

酷ヲ慨キタルモノトス。又メツセーラヲ頌シタルモノアリ。

プロパーシ アス 姓名ハセクスタス、アウレリアス、プロパーシアス。紀元前五十一

年ノ頃、アムブリアナルメヴァニアニ生レ、紀元後十九年ノ頃死ス。羅甸詩人ナリ。氏ハ

羅馬ノ勳爵士ナリシニ、マールク、アントニーニ與シタルヲ以テ爵位ト所有地ヲ剝ガル。左

レバ氏ハ十五ノ時ヨリ羅馬ニ出テ、詩作ニ從事シ、久シカラズシテヴァアイシル、メセナス

等ノ注目スル所ト爲リ、アウガスタス帝ノ保護ヲ蒙ルニ至レリ。メセナス、氏ニ望ムラク、

「一ノ史詩ヲ作り、陛下ヲ主人公ト爲セヨ」ト。氏辞スルニ力足ラザルヲ以テス。

悲歌

著ハス所、四種ノ悲歌アリ。高尚ニシテ快活ナリ。只惜ムベキハ希臘ノ諸詩殊ニカリマ

ツカス希臘ノ詩人ニシテ文法家ニ模擬スルノ極、斬新ナラザルノ一事是レナリ。

第三章 アウガスタス時代ノ散文

リヴ井ー 姓名ハタイタス、リヴ井アス。紀元前五十九年パチユア即チバタヴ井アムニ生レ、紀元後十七年死ス。有名ナル史家ニシテ、アウガスタス時代ノ散文記者中最モ擢ン

デタルモノナリ。生涯ノ大半ヲテールルス及ヒ羅馬ニ費シ、殊ニ羅馬ニハ二十餘年棲息シテ、アウガスタスノ保護ニ潤ヘリ。氏ノ傳記ハ其詳細ヲ知ルコト能ハザレド、氏ノ名聲ニ至リテハ古今万国殆ント之ヲ知ラザル者ナシ。左レハ其生前ニ在リテ、西班牙人等ハ只此有名ナル史家、殊ニ己レ等ヲシテ一讀快樂満足ヲ感セシメル著述家ヲ見ンガ爲メニ、ケヂズ西班牙ヨリ羅馬ニ來リシト云フ。

羅馬史

著ハス所ノ羅馬史(ヒストリー、オフ、ローム)ハ、建國ヨリ始マリテヅルーサス紀元前三十八年生ル羅馬ノ將ノ死去ニ至ル迄ノ記事ニシテ、全部百四十二卷ヨリ成ルト雖モ、今僅ニ三十五卷ヲ存シ、餘ハ亡ヒテ傳ハラズ。又全部ヲ十四篇ニ分チ、每篇十卷ヲ包含スルコト爲シ、第一篇ハ建國ヨリ紀元前二百九十四年サムナイツ滅亡ニ至リ、第二篇ハ欠ケ、第三篇ハ紀元前二百十九年ヨリ同二百一年ニ至ル迄、第二ピユニツク戰ノ本末ヲ全フシ、第三篇ハマセドニア戰、アンチオカス戰等二十三年間ノ出來事ヲ記シ、第五篇ハ曾テ全ク亡ヒタルモ、近年一千四百三十一年四百ウヲルムス遂ニ於テソノ卷首五卷ヲ發見シタリ。此書文法整頓シテ殆ント一點ノ疵瑕ヲ見ズ。又氏ノ目的ハ羅馬人ヲシテ明瞭ニ、愉快ニ、

其國史ヲ窺ヒ、其自尊心ヲ満足スルヲ得セシメントニ在リタレバ、ソノ文体ノ面白クシテ、平易ナルハ當然ノ事ト云フベキナリ。

ニーボス ○ ニーボス 名ハコーチリアス。アウガスタス時代ノ史家、傳記家ニシテ、シセロ前ニ在リアツチカス勳騎士ナリシセロ十七卷ノ歴史ヲ作リテ此人ニ送レリノ親友ナリ。ホスチリアニ生ル。亦アウガスタスノ保護ニ潤ヘリ。

史傳ノ吾人ニ告グル所ニ據ルニ、氏ハ編年史三卷ヲ著ハシタリト云ヒ、又古今ノ最モ有名ナル帝王將軍著述家ノ傳記ヲ著ハシタリト云フ。然レドモ皆亡ヒテ傳ハラズ。今存スルモノハ、獨リ有名ナル名將傳(リブス、オフ、ヂスチング井スト、コムマンダー)ス即チ原名ヴァイテ、エクセレンシウム、イムペラトラム)アルノミ。而シテ此書ト雖モ、亦ソノアツチカス前ニ在リ傳ヲ除クノ外ハ、皆ニーボスノ筆ニ成レルモノニアラズ。四世紀ノ頃ニーボスノ書ヲ節約シタルモノナラントノ説アリ。

第四章 羅馬文學ノ衰滅

羅馬文學ノ衰滅ノ原因

前既ニ述ヘシ如ク、羅馬ノ文學ハ、アウガスタス時代ニ在リテ最モ隆盛ヲ極メタリト雖モ、帝ノ崩スルヤ、其衰頹ノ速ナル實ニ驚クベク、西帝國ノ滅亡ト共ニ遂ニ滅亡シタリ。而シテ其原因ハ種々アリテ枚擧ニ暇アラズ。殊ニ其詳細ヲ説クハ小冊子ノ能クスベキニアラザルヲ以テ、茲ニ之ヲ省キ、只儘カニ其原因ノ二三ヲ擧レバ、(一)アウガスタス時代ノ隆盛ハ虚偽ノ隆盛ニシテ、衰滅ノ分子ヲ胚胎セシ事。(二)一方ニ於テハ、帝ノ保護ニ依頼シテ獨立ノ氣象ヲ毀損シタルニ、又一方ニ於テハ、其後ノ諸帝ノ壓制ノ爲メニ益々萎靡衰弱シテ恢復スベカラザルニ至リタル事。(三)奢侈ノ弊風一般ニ行ハレ、隨テ高尚ナル風韻ヲ損シタル事等はレナリ。

アウガスタスノ時代ノ文學者ト稱シテノ比較

讀者庶幾ハクハ前二章ニ擧ケタルアウガスタス四十五年ノ治世間アウガスタスノ治世ハ紀元前三十一年ニ始リ紀元後十四年ニ終ル前後合シテ四十五年ナリノ詩人文人ノ數ト、以下四章ニ連載スベキ四百六十二年間紀元後十四年チベリアス帝位ニ即キテヨリ同四百七十六年西帝國滅亡ニ至ル迄ノ詩人文人ノ數トヲ比較シテ其盛衰如何ヲ判セラレノコトヲ。

第五章 帝政時代ノ歴史傳記

歴史及ヒ傳記ノ比較

歴史及ヒ傳記——ダシタス 名ハカイアス、コーチリアス。紀元後五十五年ノ頃イノテラムナアムアリニ生レ、同百十七年ノ頃死ス。帝政時代最モ有名ナル平民主義ノ史家ナリ。父ハ勳爵士ニシテ、ベルジツク、ゴールノ太守タリ。ダシタス夙ニ才學ヲ以テ名アリ。ヴェスパシアン帝帝ノ治世ハ紀元六十九年ヨリ七十九年ニ至ル之ヲ愛シ、擢デ、高地位ニ置ク。次帝タイタスタイタス帝ノ治世ハ七十九年ヨリ八十年ニ至ル亦之ヲ尊重シ、ドミシアン帝帝ノ治世ハ八十年ニ至リテモ亦其暴虐苛刻ナルニモ拘ハラズ、ダシタスヲ優待スルコトハ毫モ先帝ニ讓ルコトナク、之ヲ執政ニ任ス。既ニシテ官ヲ辞シ、紀元八十九年ヲ以テ妻ト共ニ郷里ニ退ク。同九十七年チルヴァ帝帝ノ治世ハ九十六年ヨリ九十八年ニ至ルノ時、復タ羅馬ニ召サレテ執政ニ任ス。

氏ブリニー後ニ在リ最モ親友タリ。然レドモ民ハ共和主義ヲ執リ、ブリニーハ帝政主義ヲ執リ、隨テ氏ハアウガスタス帝、チベリアス帝ヲ以テ亡共和政者ト爲シテ之ヲ非難シタルニ、ブリニーハツレシエン帝帝ノ治世ハ九十八年ヨリ百十七年ニ至ルノ功德ヲ頌讚シテ措カザリシガ故ニ、政治上ニ於テハ、二氏全ク其意見ヲ異ニシタルナリ。

アグリコラ 著ハス所數種アリ。アグリコラ傳ハ氏ノ舅アグリコラノ事蹟ヲ記セルモノニシテ、傳記中最モ面白キモノ、一ナリ。

アグリコラハ公ニ私ニ總行ナ以テ名アリ。日耳曼ノ叛徒ヲ平ケ、不列顛ノ太守ニ任シ、寛容ト公平トナ以テ民望ヲ得。ドミシアン帝之ヲ妬ミテ其職ヲ削ク。氏モ不平ノ色ナク、退隱シテ餘生ヲ送り、紀元九十三年死ス。享年五十六。

獨逸風俗記

獨逸風俗記ハ細ニ其風俗習慣ヲ叙述シ、又暗ニ羅馬ノ腐敗ヲ諷刺シタルモノナリ。ヒ

羅馬諸帝史

ストリアラム、リブリ(羅馬諸帝史)ハガルバ帝六十八年位ニ即キノ暗殺ヨリトミシア

ン帝前在リニ崩御ニ至ル迄、凡テ著者ト同時代ノ事ヲ記セリ。氏猶テルザア帝、ツレシエン帝

ノ治世ノ事ヲモ加ヘントシテ果サソリキ。本書ハ今一小部分ヲ存スルノミ。羅馬編年

羅馬編年史

史(アンナルス)ハアウガスタス帝ノ崩御ヨリテロ帝ノ崩御六十八年ニ至ル迄ノ事蹟ヲ記セ

ルモノナレド、惜ムベシ亦ソノ一小部分ヲ存スルノミ。此他演說家論モ亦氏ノ筆ニ成リシ

モノナラント云フ。

氏ノ文体ハ快活精緻ニシテ自ラ一機軸ヲ出セリ。只リヴヰーニ比スレバ稍々平易ヲ欠クノミ。氏トシユヰエナル後ニトハ實ニ羅馬文學史中最後ノ大家ト稱スベキナリ。

ペーターキ
ユラス

ヴエレーアス、ペーターキユラス 紀元前十九年ノ頃生ル。チベリアス帝ノ親友

ニシテ、其嬖臣ナリ。故ヲ以テ高官ニ昇レリ。按スルニ紀元後七年ニ於テハクエスター

シセロ傳ヲ
參看スベシタリ、同十五年ニ於テハ太守タリシナルベシ。

羅馬史

著ハス所ノ羅馬史(ヒストリース、ローマ子)ハ今僅ニ二卷ヲ存スト雖モ、一目シ

テ其萬國史畧タルヲ知リ、又其文章ノ明白快活ニシテ信據スルニ足ルベキヲ知ル。氏ハ羅

馬ノ朝廷ニ媚ヲ獻センガ爲メニ、シセロトボムペイトヲ非難シタルヲ以テ社會ニ疎マレタ

リ。ソノ疎マレタルハ固ヨリ當然ノ事ナリ。

ヴアレリアス、マキシマス チベリアス帝ノ時ノ人ナリ。羅馬史及ヒ外國史中ヨリ

名家ノ言行ヲ拔萃シテ九卷ノ書ヲ著ハシ、之ヲ帝ニ獻ス。

ク井ンダス、カーシアス、ルーファス ヴエスパシアン帝、トレシエン帝ノ時ノ

人ナリ。アレキサンダー大王鴻業傳十卷ヲ著ス。今ソノ第一、第二兩卷ト、第五

卷ノ終ト、第六卷ノ始トヲ失フ。

フロラス

エル、アンチアス、シユリアス、フロラス 按スルニ、ツレシエン帝ノ時ノ人ナ

ク井ンダス、
カーシアス、
ルーファス、
歴山大王鴻
業傳

羅馬史略
ルベシ。羅馬史略四卷ヲ著ス。又詩集若干卷アリ。
アミアナス、マーセリナス 四百十年ノ頃死ス。希臘人ナリ。チルヴァ帝ノ即位ヨ
リヴァレンス帝ノ崩御三百七十八年ニ至ル迄ノ帝國史三十一卷ヲ著ス。今ハ只末尾ノ十八卷ヲ存
スルノミ。

第六章 帝政時代ノ哲學理學法學

哲學——セ子カ シセロ以來、哲學ハ羅馬ニ流行スルニ至レリ。而シテ哲學者中ノ尤
ナルヲセ子カト爲ス。セ子カハ、紀元前六年ノ頃、西班牙國コルダヴァニ生レ、紀元後六
十五年死ス。ストイック派ノ哲學者ナリ。父ヲエム、アンチアス、セ子カト云フ。コルダ
ヴァノ人ナリ。同國ノ婦人ヘルグキアヲ娶ル。三子ヲ生ム。氏ハ其長男ナリ。幼時父羅馬
ノ勳爵士ニ叙セラレタルニ由リ、伴ハレテ羅馬ニ行キ、夙ニ聰慧穎異ヲ以テ稱セラル。初
メ父ヨリ雄辨法ヲ習ヒ、後當時最モ俊秀ナルストイック派ノ人々ニ就テ哲學ヲ修ム。故ヲ
以テ嗜慾ヲ制シ、己ヲ慎ミ、運命ノ盛衰ヲ意ニ介セズ。安心立命ノ地ヲ得タリ。少時菜食

ノ法ヲ行ヒ、一切肉食ヲ禁セシカド、チベリアス帝、令チ出シテ猶太人、埃及人ノ某肉ヲ
食セザル者ヲ罰スルニ及ヒ、父ノ訓誡ニ從ヒテ肉ヲ食スルニ至レリト。既ニシテ狀師ト爲
リテ頗ル名聲アリ。然レドモ、カリギユラ帝帝ノ治世ハ三十七年ヨリ四十二年ニ至ル雄辨ノ名ヲ專占セント欲シテ
セ子カヲ妬ム。セ子カ止ヲ得ズシテ職ヲ止メテ、更ニ高等官ヲ望ミ、クエスタシセロ傳ニ
チ見ヨ任ス。偶々讒者アリ。氏ヲ誣ユルニシユリア、リヴァラ帝ノ妹ト姦通シタリト云フヲ以テス。
帝怒リテ氏ヲコルシカ嶋地中海ノ孤島ニ流ス。氏ガ謫處ヨリ母ニ送レル書翰ハ高尚脫俗頗ル尊重
スベキ價值アリ。氏コルシカニ在ル一五年。召還サレテ太子チロノ師傅ニ任ス。チロ人ト
爲リ、殘忍苛刻。位ニ即クニ及ヒテ氏ヲ死刑ニ處セリ。

論文、悲哀
戲曲
著ハス所頗ル多シ。枚舉ニ暇アラズ。茲ニハ只論文及ヒ悲哀戲曲ノ二類ニ分ツヲ得ルノミ。
理學——長プリニ——紀元後二十三年伊太利ノ地或ハ云フ、ヴェロナ——ニ生レ、

同七十九年死ス。獨逸ヲ征討シテ功アリ。西班牙ノ太守ニ任ス。然レトモ、氏ハ此際ト雖
モ、決シテ文學ヲ怠ル一ナク、晝ヲ以テ公務ノ時間ト爲シ、夜ヲ以テ讀書ノ時間ニ充テリ。
又極メテ光陰ヲ貴ヒ、食事ノ間モ從者ニ命シテ有益ナル書籍ヲ朗讀セシメ、其要處ヲ拔萃

シテ之ヲ備忘録ニ記入シ、浴後着服ノ際モ毫モ周圍ノ事物ニ心ヲ奪ハル、コナク、或ハ他人ノ有益ナル言語ニ耳ヲ傾ケ、若クハ必要ナル命令ヲ他人ニ與ヘ、旅行ノ際モ必ラス書籍ヲ携ヘ、又書記ヲ伴フテ見聞スル所ヲ筆記セシム。斯ノ如ク一方ニ於テハ勉學ノ爲メコ寸陰ヲ惜ミツ、又一方ニ於テハ之ガ爲メニ公務ヲ怠ラザランコトニ注意シタリ。左レバタイタス、ヴェスパンアンノ諸帝ハ氏ノ才徳ヲ感賞シテ之ニ高官ヲ授ケシト。晩年ミシナムニ在ル艦隊ノ指揮ヲ司ル。一日俄然灰塵ノ天ニ漲ルヲ見テ忽チ其原因ヲ究極セントノ好奇心ヲ起シ、直ニ小船ニ乗シテ、ヴェスヴサア山伊太利ノ火山ノ麓ニ到リテ噴火ノ現場ヲ目撃ス。石ト灰トハ屢々船中ニ堆積シタルモ、猶更ニ退クベキ色ナク、一夜ヲ明カシテ噴火ノ狀況ヲ詳カニシ、翌朝ニ至リテ退キ歸ラントスルニ、夜中ニ風位變更シタルヲ以テ、逆風ノ爲メニ遮ラレテ如何トモスルコト能ハズ。兎角スル間ニ破裂ハ益々激度ヲ加ヘ、氏ハ二名ノ從者ニ扶ケラレテ逃レントシタルニモ拘ハラズ、憐ムベシ途ニ火焰ニ環繞セラレテ窒息シテ死セリ。享年五十六。

博物史

著ハス所多シ。今存スルモノハ博物史(ヒストリア、ナチユラリス)三十七卷ノ

ミ。同書ハ智識ノ全体ヲ網羅スルヲ以テ其目的ト爲シ、天、地、住民、人種、動植物、海陸、學術、技藝等ニ就テ説ケルモノナリ。

法律學

法律學——帝政時代ニ法律書ノ發兌セラル、者少ナカラズ。彼ノシヤスチニアン帝四百八

(五百六十五年死ス羅馬東ガ法律集ヲ編纂スルニ當リテ其中ニ編入セシモノ大約二千書アリ。

帝ナリ法典編纂ヲ以テ名アリ)皆ナ帝政時代ノ著作ニ係ルモノナリ。アウガスタス帝、サベリアン帝ノ世ニ、アンチヌシア

ス、ラベオ、學校ヲ開キテ法律學ヲ教授シ、四百餘書ヲ遺ス。今傳ハ氏ノ敵手アテリアス、

カピト亦學校ヲ開キ、書ヲ著セリ。ハドリアン帝ノ時帝ノ治世ハ百十七年ニ始リ百三十八年ニ終ルサルヴサアス、ジュ

リエナス百三十二年ノ頃ニ、「エヂユカム、ヘルベチユアム」ト題スル法律書ヲ著ハシテ諸

ノ法令類ヲ編纂節約シ、パピニアナスセグエラス帝ノ時ノ人アルピアナス同ボーラス帝ノ時ノ人皆法律書

ヲ著シタルヲ以テ其名ヲ知ラル。然レドモ今現存スルモノハ、獨リガイアスノ註釋アル

ノミ。ガイアスハ、ハドリアン帝ノ時ノ人ナルベシ。其ノ書久シク失ハレテ世ニ出デザリ

シガ、一千八百十六年史家ニ「ブーア千七百七十六年生レ一千八百三十一人死ス獨逸人ナリ」千七百七十六年生レ一千八百三十一人死ス獨逸人ナリノ文庫ニ於テ之ヲ發見

セリ。同書ハ羅馬法ノ原理ヲ明カニシタルモノニシテ、シヤスチニアン帝ノ法律集モ殆ン

ガイアス著
法律註釋

ド之ヲ謄寫シタルニ過ギズト云フ。

第七章 帝政時代ノ修辭文法學及ヒ演說

修辭學—ク
井ンチリア

修辭學——ク井ンチリアン 名ハマーカス、フアピアス。紀元後四十二年西班牙國
カルガリスニ生レ、同九十五年死ス。初メ羅馬ニ於テ修辭學校ヲ開キテ子弟ヲ教授シ、頗
ル名聲ヲ博セリ。公立學校ノ教師トシテ國家ヨリ報酬ヲ受ケシハ氏ヲ以テ嚆矢ト爲ス。又
代言人ト爲リ、次テ執政ニ任セリ。後退キテ專ラ文學研究ニ從事シ、「リブリ、ヅユー

演說書

デシム、インスチナユーシヨニス、オレートリアト題スル演說書ヲ著ハセリ。
同書ハ十二卷ヨリ成リ、試験上若クハ觀察上ヨリ良好完全ナル演說家ト爲ルノ方法ヲ説キ、
國語ノ純粹質朴風雅ヲ恢復セント勉メリ。後又兩皇子ドミンシアン帝ノ皇子ナリノ師傅ニ任ス。是レヨリ
先キ、氏ハ退隱中頗ル究迫シタリシカド、門人小プリニー後ニ在リノ助力ニヨリテ生活スルヲ
得タリ。

エム、アンチアス、セチカ

エム、アンチアス、セチカ 哲學者セチカノ父ニシテ、西班牙國コルタバノ人ナリ。

文法學—ア
ウラヌ、ゲ
リアス

アウガスタス帝ノ時羅馬ニ來リ、修辭學ヲ以テ名ヲ著ハセリ。勳爵士ニ叙セラル。

文法學——アウラヌ、ゲリアス アントニアス帝ノ時、即チ紀元後百三十年ノ頃ノ

ノクテス、
アツチーヌ

人ナリ。ノクテス、アツチーヌト題スル書二十卷ヲ著ハス。同書ハ國語、哲學、理學
ニ關スル數多ノ問題ヲ論シタルモノニシテ、殊ニ文法上ニ有用ナリ。氏ハ伊太利、希臘諸
國ヲ遊歴シテ、此書ノ材料ヲ集メタリ。

アウレリア
ス、マコー
ピアス
サターナリ

アウレリアス、マコーピアス 有名ナル文法家ナリ。五世紀ノ頃ニ生活ス。サタ

ーナリアト題スル書ヲ著シ、書中ニ羅馬文學諸大家ノ名文ヲ拔萃シテ、之カ批評ヲ試ム
ヴァーシタルガ他書ホーマーノ書等ヲ剽竊シタルヲ看破シ、若クハ羅馬ノ詩人演說家ノ長所ト欠典ト
ヲ注意シタルガ如キハ、氏ガ眼力ノ大ナルノ証トスベシ。此他著ハス所五六種アリ。

演說—小
プリニー

演說——小プリニー 紀元後六十年ノ頃生レ、同百十三年死ス。長アリニノ甥ニシ

テ其養子ナリ。少時專ラ雄辨法ヲク井ンチリアンニ學ブ。十九歳ノ時、代言人ト爲リ、雄
辨ヲ以テ同僚ノ間ニ頭角ヲ見ハス。時人、氏トヲシタス前ニ在リトヲ稱シテ兩大雄辨家ト云ヘ
リ。氏ノ代言ヲ業トスルヤ、利得ヲ収メンガ爲メニアラズ。枉チ伸シ、冤ヲ雪キ、善ヲ勸

メ、惡ヲ露ハサントノ趣旨ニ出テタルヲ以テ、其依頼者ノ貴賤貧富ニ論ナク、一切謝金ヲ辭シテ之ヲ受ケズ。ツレシエン帝位ニ即クニ及ヒテ、氏ヲ擢ンデ、執政ト爲ス。後ボンダス及ヒビスニアノ總督ニ任ス。時ニ氏仁政ヲ旨トシ、賦稅ヲ輕クシ、基督教徒虐待ノ法ヲ廢シ、貧民ノ友ト爲リ、學問ノ保護者ト爲リ、下ニ對スル恭謙懇懇ニ、己ヲ處スル節制勉強ナリ。

著ハス所ノ演說集、今世史、詩集ハ皆亡ヒテ傳ハラズ。今存スルモノハ只書翰集アルノミ。

第八章 帝政時代ノ詩歌及ヒ小説

詩——ルーカーカン 詩史詩家
ルーカーカン 姓名ハマーカス、アンテアス、ルーカナス。紀元後三十八年西班牙國コルダバニ生レ、同六十五年二十六歳ニシテ死ス。夙ニ羅馬ニ移リテ、ストイツク派ノ哲學者コルニユタスニ學ヒ、又雅典ニ行ク。叔父セテカ之ヲテロ帝ニ薦ム。帝用キテ陰陽師兼クエスターシセロ傳ニ見ヨニ任ス。時ニ猶丁年未滿ナリ。左レバ殘酷無比ノ君主ニ事ヘツ、

一ニ血氣ニ任カセテ前後ヲ顧慮スルコトヲ爲サズ。一日帝ト詩作ノ優劣ヲ競ヒ、氏ハオルフニアスアポロ神ノ子ナリヲ題トシ。帝ハニオベ女神ナリヲ題トシテ、各々一篇ノ詩ヲ作りシニ、氏ト帝トハ其優劣固ヨリ霄壤ノ差アルヲ以テ、茲ニ帝ノ猜忌心ヲ惹起セリ。左レバ帝ハ此遺恨ヲ晴ラサント欲シテ、晝夜工夫ヲ凝ラシ。日タルーカーカンニ逢フ毎ニ、之ヲ嘲弄侮辱シテ甚シキ耻辱ヲ與ヘシカバ、少壯ナルルーカン何ソ之ニ堪ユベケン。當初ハ姑ラク怒ヲ制シテ意ニ介セザルノ外面ヲ裝ヒシモ、度重ナレルニ從テ漸ク忿恚ノ念骨髓ニ徹シヌ。是時ニ當リテ、パイソト云ヘル人ノ叛ヲ謀ルアリ。氏其徒黨ニ與シタリトノ告訴ヲ受ケ、遂ニ死刑ニ處セラル。

フアーサリ フアーサリ フアーサリアハ氏ノ著作中只一ノ遺存セルモノナリ。同書ハ十卷ヨリ成レル史詩ニシテ、シーザル、ポムペイノ内乱ノ顛末ヲ叙述シ、自由ヲ愛スルノ意ヲ示セル快活ナル著作ナリ。

シリアス、イタリカス シリアス、
イタリカス シー、シリアス、イタリカス 初メ代言人トシテ名聲アリ。後羅馬ヲ退キテ專テ勉學ニ從事シ、紀元後六十八年、即チテロ帝自殺ノ當年ニ執政ニ任ス。

第二ビユニ
ツク戦ヲ詠
スルノ詩

スタシアス

史詩セバイ
ス井ニアチ
レーヌ

シルヴェ

クローヂア
ン

氏二家チ有ス。一ハ曾テシセロノ住家タリシモノ、一ハヴァーヂルノ墳墓ノ在ル所タリ。而シテ氏ハ常ニ此墳墓ニ詣テ、又毎歲ヴァーヂルノ誕辰ヲ祝シ、一ニヴァーヂルニ摸倣シタルヲ以テ、人呼テ「ヴァーヂルノ猿」ト云ヒタリト。紀元後百年臙瘡ヲ病テ死ス。享年七十五歳。著ハス所第一ビユニツク戦ヲ詠スルノ詩十七卷アリ。

ピー、パピニアス、スタシアス、ドミシアン帝ノ治世ニチ、ブルスニ生ル。父エピラスノスタシアス、帝ノ師タリ。氏夙ニ羅馬ニ遊學シ、詩才ヲ以テ稱セラル。後二種ノ史詩ニ由リテ名ヲ顯ハス。一ヲセバイスト云ヒ、十二卷ヨリ成ル。一ヲアチレースト云ヒ、二卷ヨリ成ル。アチレーヌハ氏ノ死スル時、未タ稿ヲ完フセザルモノナリ。又シルヴェト名クル詩集四卷アリ。曾テ史詩二篇ヲドミシアン帝ニ獻ス。共ニ帝ヲ神ニ列シタルモノナリ。當時ノ詩人ノ阿諛卑屈ナルヲ斯ノ如シ。紀元後九十六年郷里ニ死ス。

クローヂアン 姓名ハクローヂアス、クローヂアナス。アレキサンドリア府ニ生ル。紀元後三百五十年ノ頃、羅馬ニ來リテ、スチリコセオドシアス大帝ノ將軍ナリ。庇蔭ヲ仰キ、高官ニ登庸セラル。

四詩

著ハス所ノ尤ナルチ(一)ラプダス、プロサーピ子トス。未タ稿ヲ完フセザルモノニシテ三部ヨリ成ル。(二)ザイガントマチア。亦稿ヲ完フセザルモノナリ。(三)デ、ベロ、ギルドニコ。今僅ニ第一卷ヲ存ス。(四)デ、ベロ、ゲチコ。羅馬ノ將軍スチリコガ、ポレンシアニ於テ、ゴツスノ將アラリツクヲ敗リタルノ狀ヲ詠セシモノナリ。氏ノ詩ハ凡テ風韻ニ乏シ。

諷詩

諷詩 抑モホレーヌ前ニ死シテヨリ、樂詩ハ全ク滅亡ノ姿ニ歸シ、之ニ代ハリテ羅馬特得ノ長所タル諷詩頗ル發達隆盛ヲ致セリ。而シテ諷詩家ノ巨擘ヲジュヴェナルト爲ス。

ジュヴェナ
ル

シユヴェナナル 姓名ハデシマス、シヤニアス、シユヴェナリス。紀元後三十八年——或ハ云フ四十年——アクサナムニ生レ、同百年——或ハ云フ百二十八年——死ス。夙ニ羅馬ニ出テ、熱心ニ雄辨法ヲ學ヒシガ、後全ク之ヲ廢シテ專ラ諷詩ヲ學ヘリ。チロ帝ノ時、帝ガ俳優パリスヲ寵遇スルノ狀ヲ諷詩ニ顯ハセリ。左レド帝ガ在世ノ間ハ、毫モ譴責ヲ蒙ルコトナカリシカド、帝崩スルノ後、パリスハ此怨ヲ報セント欲シテ、竊カニドミシアン帝ニ愁訴シタリシカバ、帝ハ氏ヲ埃及極端ノ太守ニ命シテ、暗ニ之ヲ流竄ニ處セリ。時ニ氏

齡八十。憂悶煩勞ニ堪エズ。後ツレシエン帝ノ治世ニ、パリス死シテ氏ハ羅馬ニ召還セラレ、久シカラズシテ死セリ。

十六調詩

著ハス所ノ諷詩頗ル多シ。今存スルモノハ十六ニ過ギズ。其中一箇ハ僞作ナラントノ説アリ。氏ノ言詞ハ嚴格ニ失シ、其趣味ハ純潔ナラザル所アリ。然レトモ其觀念ハ高尚ニ、且ツ常ニ眞實、名譽、公義ノ念ヲ心ニ懷クテ以テ、自ラ一機軸ヲ出シ、讀者ヲシテ注意ヲ留メシムルナリ。

パーシアス

パーシアス 姓名ハアウラス、パーシアス、フラツカス。紀元後三十四年エトルリアナルヅラテラニ生レ、同六十二年死ス。閨閣ノ人ナリ。當時ノ名家ト親交シタルヲ以テ名ヲ顯ハス。幼時郷里ニ於テ教育ヲ受ケ、十六歳ノ時、羅馬ニ出テ、有名ナルストイツク派ノ哲學者コーナタスニ就テ哲學ヲ修メ、又文法家ペールモン、修辭家ヴァーシニアスノ教ヲ受ク。氏人ト爲リ温和慈仁。衆ノ感スル所タリ。常ニ諷詩ヲ作り、當時ノ詩人、雄辨家ノ過失ヲ暴露スルヲ勉トセリ。氏死スル時、藏書七百部ト多分ノ金銭トヲ其師コーナタスニ遺ス。コーナタス書ヲ受ケテ金銭ヲ辞セリ。

六調詩

著ハス所ノ諷詩六種アリ。其如何ニ就テハ批評百出セリト雖モ、要スルニ譽ムベキノ價値ヲ備ヘタルモノナリ。

短詩

短詩(エピグラム) シセロノ時ヨリ、名家才子ト稱セラル、人ハ多ク短詩ヲ遺スノ風習ヲ造出シ、アウガスタス帝ノ時ニ至リテハ、宮廷ニ事フル人、短詩ニ由リテ我カ意中ヲ吐露スルヲ恰カモ支那春秋ノ世ニ詩經ノ詩句ヲ假リテ主客相應答シタルガ如クナレリ。

マーシヤル

マーシヤル 姓名ハマーカス、ヴァレリアス、マーシヤリス。紀元後四十年ノ頃、西班牙ビルビリスニ生レ、同百四年ノ頃死ス。短詩家ノ巨擘ナリ。二十歳ノ時、羅馬ニ出テ、高等ノ教育ヲ受ク。詩ヲ作りテ常ニ羅馬帝ヲ頌讚シタルヲ以テ、タイタス帝、ドミシアン帝ノ寵遇ヲ蒙リ、保民官ニ任ス。然レトモ帝ノ崩後ニ其暴虐ノ次第ヲ述ヘテ誹謗ヲ極メシカバ、ツレシエン帝ハ特ニ氏ヲ冷遇シ、氏モ亦三十五年間住ミ慣レシ羅馬ヲ跡ニ見テ郷里ニ歸ラザルヲ得ザルニ至レリ。

作ル所ノ短詩頗ル多シ。其數凡ソ一千五百首。之ヲ分類シテ十四卷ト爲ス。皆斬新氣拔ノモノナリ。

短詩ハ末年ニ至ル迄流行シ、セチカ、小アリニー、ハドリアン等多ク之ヲ作り、輓近舊詩中ノ人氣ニ適合スルモノナリキ。

新小説

新小説　ローマンス即チ近世ノ小説ハ、願フニ第一世紀ノ頃ノ諷話ヨリ起リシモノナル

ベク、而シテ此諷話ナルモノハ、チロ帝ノ寵臣ベツロニアス、アービターニ始マリ

若クハサイセンナ紀元前九十一年ノ頃ノ羅馬ノ史家ナリアリガ、アリスタイドス希臘文學史ノミレ

シア物語ヲ希臘語ヨリ羅甸語ニ翻譯シタルヨリ始マレリト云フ。又ベツトロニ、アー

ビトリ、サナリユント題スル韻文散文ヲ取雜ヘシ小説アリ。其何人ノ作ナルヲ知ラズ

書中エンコロピア的ノ人物ノ冒險ノ物語ヲ載セ、當時ノ惡徳欠典ヲ笑ヘリ。但シ今僅ニ

一部分ヲ存シ、他ハ皆亡ヒタリ。惜ムベシ。

又アントニナス帝マールカス、アウレリアス帝ナリ其治ノ世ニ、アピユレーアスト云ヘル人アリ

阿非利加洲マドーラニ生ル。左レド智識ヲ得ンガ爲メニ、先ツカーセーシニ行キ、次テ雅

典ニ行キテ鬼神傳ト、アレトノ哲學トヲ修メ、又羅馬ニ到リテ富裕ナル寡婦ピユードンチ

ヲ娶ル。氏人ト爲リ洒落。面白キ談話ニ富メリ。左レバ此性質ト學力トヲ以テメタモ

ルフナーセン(ゴールデン、アツス)ト題スル新小説十一卷ヲ著シ、時弊ヲ矯正

セント勉メリ。此書ノ結構ヲ畧記スレバ、主人公タル一ノ惡少年、驢馬ニ變シテ諸方ヲ流

寓シ、種々ノ面白キ危険ヲ冒シタルノ後遂ニ不思議ノ冥助ヲ得テ以前ノ人間ニ復ヘルノ仕

組ナリ。又此物語ハ因ニ依リテ種々ノ別話ヲ挿シ、面白ク、且ツ有益ナルモノナリ。然レ

トモ其言語ノ鄙野ナルニ至リテハ則チ文學的趣味衰頹ノ徵証ト言ハザルヲ得ザラン。

以上三篇十三章ハ羅馬建國ヨリ西帝國滅亡——即チ文學滅亡——ニ至ル迄ノ文學史ノ大

綱ヲ叙述シタルモノナリ。而シテ著者固ヨリ自ラ完璧ナリト信スルニアラズ。只可及的

數多ノ書中ヨリ、可及的數多ノ事項ヲ、可及的簡短ニ編纂シタリト信スルノミ。若シ夫

レ完璧ニ庶幾キモノハ、他日ヲ待チテ編纂スル所アラントス。

羅馬文學史 畢

著書一覽表

小説	修辭法 文法 演説	哲學 理學 法學	歷史 傳記
	シセロ(テ、オレーター) 雄辯家 シセロ(エピッスルス) 尺牘集 ヴァーロ(テ、リンガ、ラチナ) 文法書	同(テ、アミシッタ) 同(テ、セクチュート) ヴァーロ(テ、レ、テスチカ) 農書	フアビウス、ロクター(羅馬編年史) シンシアス、アリメンタス(同) 長ケト(百事起源) シザル(内乱史) サラスト(カチリナ及ヒシユガーザ)
		ヴァーシル(シヨ! シツクス) 農書但韻文	リグネ(羅馬史) ニボス(名將傳)
	ク井ンチリアン(演説書) アウラス、ゲリアス(文法書) アウレリアス、マコービウス(サターナリカ) 小ブローニ(書翰集)	セ子カ(哲學書類) 長アリニ(傳物史) ガイアス(法律註釋)	タシタス(アグリコラ傳) 同(獨逸風俗記) 同(羅馬諸帝史) 同(羅馬編年史) ヘスターキユラス(羅馬史) カシウス、レインアス(羅馬史) フロラス(羅馬史略) マセリナス(帝國史)

著述家并ニ

年代	戯曲	史詩	樂詩	教詩	悲詩 短詩 諷詩
自紀元前七百五十二年 至同	フエスセンニン歌				
自紀元前五百九十九年 至同	アンドロニカス 子グネアス エンニアス テプロンタス アテラ マイム 羅馬創製ノ戯曲	史詩家 エンニアス (羅馬紀年) カタラス(アチス)		ラクリシアス(物体)	
自紀元後三十四年 至紀元前三十四年		ヴァーシル(エニード) オヴヰツド(万事ノ變化)	ヴァーシル(牧歌) ホレーヌ(短歌集)	オヴヰツド(フアスチ)	ホレーヌ(諷詩集) 同(短長詩集) オヴヰツド(悲歌集) プロバシアス(悲歌)
自紀元後十四年 至同		ルーカー(フアーサリア) シリウス、イタリカス (第一ヒュニツク戰詩) スタシアス(セバイス及ヒアチレス) クロイザン(四詩)			ジュグエナル(十六諷詩) マーシヤル(短詩)

明治廿四年十月二日印刷
 明治廿四年十月六日出版

正價金拾八錢

著者 澁江保

印發者兼 大橋新太郎

東京日本橋區本石町三丁目

日本橋區本石町三丁目十六番地



發兌元博文館

書圖館文博
 所捌賣大

東全全全大全全東
 京 坂 京
 名古屋部

東上水大吉柳梅松東
 田野倉原村枝
 京屋慶平兵兵九律
 大書次書兵兵書代
 堂店耶助七衛助房

神鹿全大長全松山
 熊兒本島
 口江時分多

熊谷久榮次郎
 長崎兵衛吉野
 富田幸兵衛
 高橋三郎
 山崎三郎
 川崎三郎
 廣田三郎
 清水三郎
 水野三郎
 清川三郎

廣野金澤長水長金野
 廣野金澤長水長金野

廣野金澤長水長金野
 廣野金澤長水長金野

博 文 館 發 兌
少 年 書 類

● 知川志賀重昂君序文 三木貞一君校閱並序文 齋藤良恭君編
 少年文園遊戲 全一冊 賣價金廿五錢 郵稅二錢五厘

● 文科大學教授井上哲二郎 文學士高田早苗兩君序文 吉田巳之助君譯
 成功勤學要訣 全一冊 正價金三十錢 郵稅三錢

● 英國マツシユニー大氏原著 濫江保君譯補
 處世活法 全一冊 賣價金廿五錢 郵稅二錢五厘

● 幸福散史 濫江保君譯述
 處世幸福要訣 全一冊 賣價金廿五錢 郵稅二錢五厘

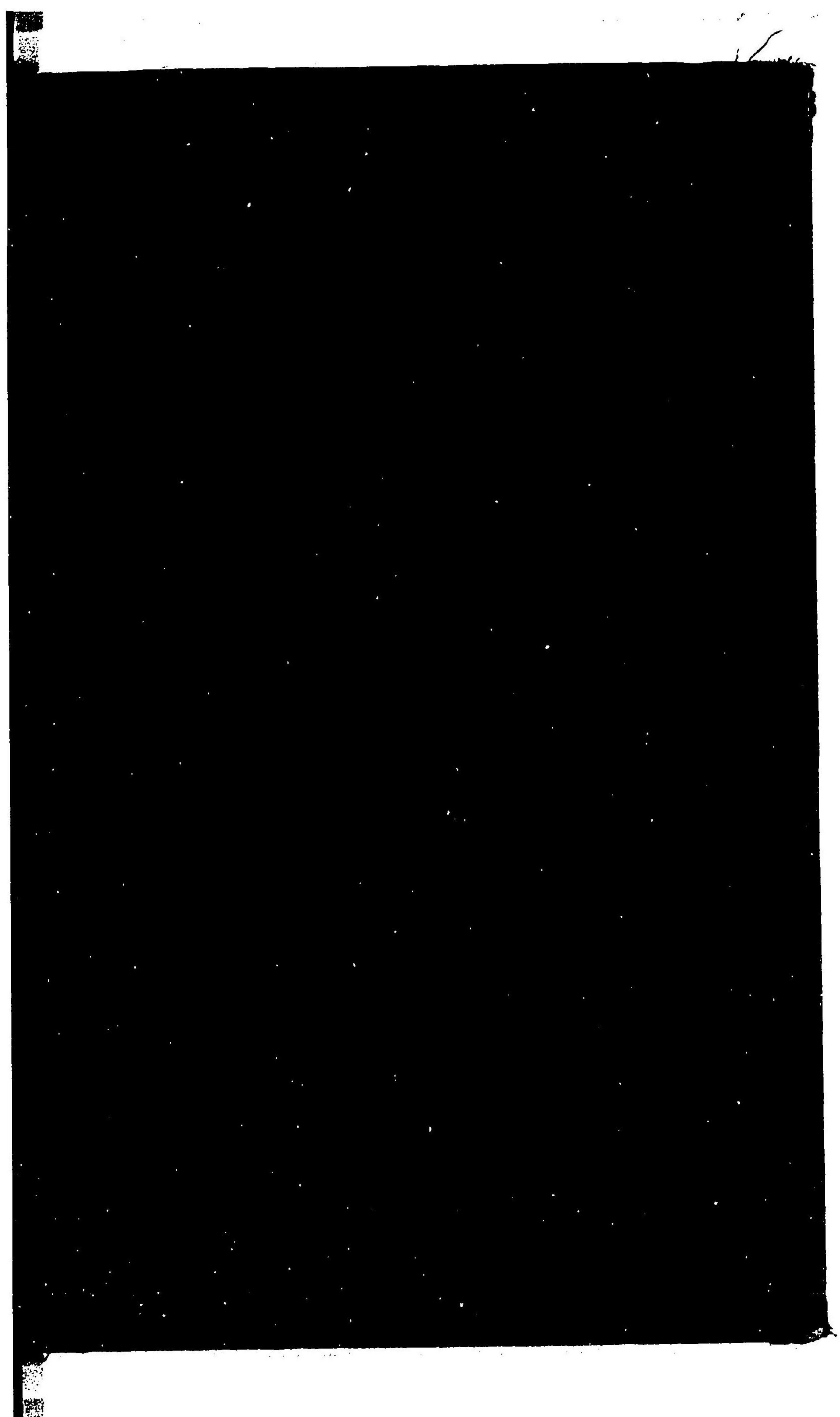
● 法學士高槻純之助君序文 濫江保君譯述
 福神之 全一冊 賣價金廿五錢 郵稅三錢

● 衆議院議員嶋田三郎君序文 濫江保君著
 童 全一冊 賣價金廿五錢 郵稅二錢五厘

● 學習院教授峯是郎君校閱 素木真龍君著
 初等修身口授書 全一冊 正價金十二錢 郵稅一錢五厘

● 流鶯散史谷口政徳君著
 少年修身徒之寶 全三冊 正價金十錢 郵稅二錢

68
91



68
91

084704-000-3

68-91

希臘羅馬文學史

洪江 保 / 著

M24

DBA-0028



